

1 総合研究博物館の組織－2007年度－

館 長 大木 公彦 教 授 総合研究博物館
研究部

資料研究系	大木 公彦 教 授	地質・古生物学
	橋本 達也 准教授	考古学
	福元しげ子 助 手	博物館資料学
分析研究系	落合 雪野 准教授	民族植物学、東南アジア地域研究
	本村 浩之 准教授	魚類分類学
事務補佐員	西元 暢子	
事務補佐員（常設展示室）	佐々木恵子	
技術補佐員	岩井 雄次	
科研費研究支援員	藤井 大祐	
事 務 局	研究国際部研究協力課研究支援係	

運営委員（総合研究博物館専任教員を除く）

法文学部	渡辺 芳郎 教授	教育学部	林 進 教授
理学部	山根 正氣 教授	医学部	井上 尚美 講師
歯学部	田中 卓男 教授	工学部	村島 定行 教授
農学部	津田 勝男 教授	水産学部	中村 薫 教授
医歯学総合研究科	中村 典史 教授		

兼務教員（敬称略）

地球科学分野

森脇 広：法文学部（自然風景の変化に関する研究）
 八田 明夫：教育学部（理科教育、有孔虫の研究）
 松井 智彰：教育学部（斜長石巨晶の鉱物学的研究）
 井村 隆介：理学部（活断層と活火山の活動史とその災害に関する研究）
 河野 元治：理学部（鉱物科学・粘土科学・地球環境科学）
 小林 哲夫：理学部（火山地質、噴火現象、テフロクロノロジー）
 中尾 茂：理学部（始良カルデラ周辺の地殻変動の研究）
 仲谷 英夫：理学部（地質古生物標本に基づく生命と地球環境の変遷史）
 根建 心具：理学部（原始地球における生命と環境の共進化）
 山本 啓司：理学部（ヒマラヤ山脈のテクトニクス）
 尾上 哲治：理学部（トリアス－ジュラ紀のパンサラ海における太平洋堆積作用）
 日高 正康：水産学部（海底堆積物の底質とその付近の流れについて）

生物学分野

河合 溪：多島圏研（南西諸島における海産無脊椎動物の種分化）
 野田 伸一：多島圏研（医学的に重要な昆虫・ダニ類の分布）
 日高 哲志：多島圏研（南西諸島における果樹農業の実態と今後の展開）
 相場慎一郎：理学部（多雨林の樹木種多様性）
 鈴木 英治：理学部（熱帯林の動態と更新・鹿児島県の植生）
 宮本 旬子：理学部（陸上植物の生物多様性の解析）
 佐藤 正典：理学部（海産底生無脊椎動物の分類学的研究）
 富山 清升：理学部（軟体動物の分類・生物地理）

山根 正氣：理学部（東南アジア産剣膜翅類の分類と生物地理）
 一谷 勝之：農学部（作物の遺伝的多様性）
 馬田 英隆：農学部（キノコと無葉緑植物との共生に関する研究）
 遠城 道雄：農学部（熱帯産イモ類の生理・生態および形態学的研究）
 富永 茂人：農学部（農業技術と農器具の進歩に関する研究）
 中西 良孝：農学部（在来家畜および野生動物の保護と活用に関する研究）
 米田 健：農学部（森林の生態と管理）
 安藤 清一：水産学部（水棲動物の脂質輸送タンパク質遺伝子の in silico クローニング）
 大富 潤：水産学部（エビ・カニ類および魚類の資源生物学）
 四宮 明彦：水産学部（沿岸性魚類の繁殖行動、希少淡水魚の生活史と保全）
 鈴木 廣志：水産学部（十脚甲殻類の分類と生態）
 寺田 竜太：水産学部（熱帯性海藻類の分類）
 山田 章二：水産学部（魚類ペプチダーゼ遺伝子のcDNA解析）
 山本 智子：水産学部（海洋生物の群集生態学的研究）
 小針 統：水産学部（動物プランクトンの生態学的研究）

考古学・歴史学・民俗学分野

原口 泉：法文学部（薩摩藩の博物学）
 本田 道輝：法文学部（九州と南西諸島の文化交流の研究）
 渡辺 芳郎：法文学部（薩摩焼の考古学的研究）
 梅野 正信：教育学部（歴史教育）
 下原 美保：教育学部（近世初期のやまと絵について、近世薩摩の絵師について）
 日隈 正守：教育学部（日本中世諸国一宮制の研究）
 藤枝 繁：水産学部（漂着物に関する研究）

教育学・理学・学術情報学分野

森 邦彦：学術情報基盤センター（光情報処理、遺伝的アルゴリズム）
 河原 尚武：教育学部（鹿児島における学校関係資・史料の調査・研究）
 土田 理：教育学部（観察・実験場面における児童・生徒のグラフ認知過程、観察・実験活動へ児童・生徒同士のコミュニケーションが果たす役割）
 穴澤 活郎：理学部（非人為作用による陸水の水質形成機構の解明）
 有馬 一成：理学部（タンパク質分解酵素アイソザイムの分子進化）
 楠元 芳文：理学部（光化学・環境化学・クリーンエネルギー化学）
 富安 卓滋：理学部（環境中における水銀の挙動）
 八木 史郎：農学部（菌類タンパク質・酵素に関する研究）
 山本 雅史：農学部（果樹類のアイソザイムおよびDNA分析）
 大西 佳子：医歯学総合研究科（サイエンス・コミュニケーション）

学外協力研究者（鹿児島大学総合研究博物館組織規則に従い学外の協力研究者を置く）

秋元 和實：熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター准教授（古生物学、底生有孔虫類を用いた地質時代の海洋環境の復元）
 石畑 清武：鹿児島大学名誉教授（熱帯園芸学、熱帯果樹、植物、野菜類の導入、順化、生態、形態の研究評価とそれらの栽培及び改良に関する研究）
 稲田 博：（多自然型河道計画及び環境保全型河川護岸工法・河川水質浄化工法の研究・始良カルデラからの火砕流堆積物の分布調査及び研究）
 浦島 幸世：鹿児島大学名誉教授（地殻における元素の移動と濃集、たとえば熱水の溶存物質の移動と濃集による金属鉱床の研究）

- 江口 克之：(東南アジア地域に生息するアリ類の多様性生物学的研究、特にオオズアリ属の記載分類学及びベトナム産アリ類のインベントリー)
- 太田 英利：琉球大学熱帯生物圏研究センター教授(爬虫両生類の系統・分類・生物地理・自然史・保全、特にアジア東部からオセアニア西部にかけての亜熱帯および熱帯域の島嶼における種分化、系統進化について研究)
- 大塚 裕之：鹿児島大学名誉教授(西日本・台湾の後期新生代の層序学的・生層序学的研究、後期新生代の古脊椎動物相)
- 小野 修介：都城東高等学校教諭(刺胞動物の分布、生態、長期的な変化及び配偶子形成の研究)
- 木下 紀正：鹿児島大学名誉教授・鹿児島大学産官学連携推進機構客員教授(素粒子・原子核物理学・衛星画像解析による地球環境科学)
- 櫛下町鉦敏：(寄生性膜翅目、特にヒメバチ科の分類学的研究、東南アジア産膜翅目有剣類の分類学的研究、東南アジア産チョウ・ガ類・ハムシ類、ハナアブ類の分類学的研究)
- 税所 俊郎：鹿児島大学名誉教授(海洋生物学、水族生態学、水産動物学に関する研究)
- 坂元 隼雄：鹿児島大学名誉教授(環境試料中の微量成分の分布法の開発・火山ガスや温泉成分による火山活動の余地・自然水中の科学成分の挙動・有害化学成分の分布と共同に関する研究)
- 櫻井 仁人：(鹿児島湾の海水交換、黒潮の変動、鹿児島の気候変動、地球環境と温暖化)
- 櫻井 真：鹿児島純心女子短期大学准教授(魚類の繁殖生態を中心とする生活史の研究)
- 鮫島 正道：第一幼児教育短期大学教授(動物形態学、鳥類骨格による比較形態学的研究、鹿児島県に分布する脊椎動物のフィールド調査による生態観察と分類・形態学的研究)
- 下山 正一：九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門生物圏進化学講座助手(古生物学と地質学、軟体動物化石の系統分類と群集古生態の研究・生物起源堆積物の生成、運搬、拡散過程の理論的研究・新生代の地層区分と年代測定に関する地質学的研究・化石と地層を使った九州の地殻運動累積傾向の研究)
- 田川日出夫：鹿児島大学名誉教授(生物学・植物分類学)
- 田代 正盛：タシロ眼科医院(医学・眼科、眼球の病理組織学的研究)
- 土田 充義：鹿児島大学名誉教授(日本建築史、神社建築・日本の民家・アジアの民家・近代建築を研究)
- 塚原 潤三：鹿児島大学名誉教授(海産無脊椎動物の生殖と発生)
- 西中川 駿：鹿児島大学名誉教授、放送大学鹿児島学習センター所長(動物考古学、動物解剖学)
- 早坂 祥三：鹿児島大学名誉教授(層位学、古生物学、地史学、海洋地質学)
- 福田 晴夫：(昆虫生態学、蝶類の生活史・日本蝶相の成立史、とくに南方からの移動種に関する研究)
- 藤田 晋輔：鹿児島大学名誉教授、鹿児島大学産官学連携推進機構客員教授(樹木の材鑑定、循環型社会システムの技術的構築、有機系廃棄物のエネルギー化と有価物化)
- 堀田 満：鹿児島大学名誉教授(植物系統分類・地理学、熱帯植物、有用・民族植物学の研究)
- 丸野 勝敏：(カヤツリグサ科植物、ハリイ属植物、ミクリ科植物の分類)
- 萬田 正治：鹿児島大学名誉教授(畜産学・とくに動物行動学を基礎とする家畜管理技術の開発)

- 三木 靖：鹿児島国際大学短期大学部名誉教授（中世城郭史、日本荘園史、戦国史、南島史、文化財史の研究）
- 山下 智：鹿児島大学名誉教授（動物生理学とくに味覚・嗅覚の神経生理学を専門とし、化学感覚の神経情報の電気生理学的解析、および昆虫、魚類、両生類にわたる比較生理学の研究）
- 湯川 淳一：鹿児島大学名誉教授・九州大学名誉教授（タマバエ類の分類学的及び生態学的研究、昆虫と寄主植物の相互関係、地球温暖化が昆虫に及ぼす影響、インドネシア・クラカタウ諸島の生態遷移に関する研究）

2 総合研究博物館規則等

鹿児島大学総合研究博物館規則

（平成16年4月1日制定）

（趣旨）

第1条 この規則は、鹿児島大学学則（平成16年4月1日制定）第7条第2項の規定に基づき、鹿児島大学総合研究博物館（以下「博物館」という）の組織に関し、必要な事項を定める。

（目的）

第2条 博物館は、鹿児島大学（以下「本学」という）の学内共同教育施設として、本学の学術標本資料の収蔵、展示、公開及び学術標本資料に関する教育研究支援を行うとともに、学内外の教育研究活動に寄与することを目的とする。

（業務）

第3条 博物館においては、次に掲げる業務を行う。

- 1）学術標本資料の収集及びその利用に関すること。
- 2）学術標本資料の解析及び学術評価に関すること。
- 3）学術標本資料の情報化に関すること。
- 4）その他博物館の目標を達成するために必要なこと。

（研究部）

第4条 博物館に、研究部を置く。

- 2 研究部に次の2系を置く。

資料研究系

分析研究系

（職員）

第5条 博物館に、次に掲げる職員を置く。

- 1）館長
- 2）専任教員
- 3）その他必要な職員

- 2 前項第2項及び3号の職員は、博物館長の命を受け、博物館の業務に従事する。

（博物館長）

第6条 博物館長は、本学の専任教授のうちから、国立大学法人鹿児島大学学内共同教育施設等人事委員会が推薦し、学長が選考する。

- 2 博物館長は、博物館の業務を掌理する。
- 3 博物館長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、博物館長に欠員を生じた場合の補欠の博物館長の任期は、前任者の残任期間とする。

(兼務教員)

第7条 博物館に、兼務教員を置くことができる。

2 兼務教員は、所属部局長を経て申し出のあった者について、学長が兼務を命ずる。

3 兼務教員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(研究協力者)

第8条 博物館に、学外協力研究者を置くことができる。

2 協力研究者は、国立大学法人鹿児島大学総合研究博物館運営委員会の議を経て、博物館長が以嘱する。

(事務)

第9条 博物館に関する事務は、研究国際部研究協力課において処理する。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、博物館に関し必要な事項は、博物館長が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 この規則の施行前に在職する博物館長は、この規則により選考された博物館長とみなし、その任期は第6条3項本文の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

3 この規則の施行前に在職する兼務教員は、この規則により兼務された兼務教員とみなし、その任期は、第7条第3項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年5月25日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

国立大学法人鹿児島大学総合研究博物館運営委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人鹿児島大学常置委員会規則（平成16年4月1日制定）第3条第3項の規定に基づき、国立大学法人鹿児島大学総合研究博物館運営委員会（以下「委員会」という）に関し、必要な事項を定める。

(組織)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

1) 博物館長

2) 博物館の専任教員

3) 各学部及び大学院医歯学総合研究科の教授、准教授又は講師のうちから選出された者各1名

2 前項第3号に規定する委員は、それぞれの部局の長の推薦に基づき、学長が任命する。

3 第1項第3号に規定する委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第3条 委員会は、第4常置(研究・社会連携)委員会が定める管理及び運営の基本方針に基づき、博物館の運営に関する具体的事項を審議する。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、博物館長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 委員会は、委員の過半数の出席により成立し、議事は出席委員の過半数により決し、可否同数のときには議長の決するところによる。

(代理出席)

第6条 委員が事故のために出席できないときは、代理の者を出席させることができる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(部会)

第8条 委員会に、専門的事項を審議するため、部会を置くことができる。

2 部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、研究国際部研究協力課において処理する。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

2 この規則の施行前に委員となった助教授は、その任期の満了の日まで引き続き委員とする。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年11月28日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

鹿児島大学総合研究博物館学外協力者に関する申し合わせ

(趣旨)

1 鹿児島大学総合研究博物館規則第8条第1項の規定に基づき、鹿児島大学総合研究博物館(以下「博物館」という)の研究等の推進を図るため、学外協力研究者に関する必要事項について申し合わせる。

(申し込み)

2 学外協力研究者として、博物館において協力活動を行おうとする者は、所定の申込書（別紙様式第1号）により博物館長に提出するものとする。

(選考方法)

3 博物館長は、2により申し込みのあった者について、国立大学法人鹿児島大学総合研究博物館運営委員会（以下「運営委員会」という）の議を経て、博物館長が委嘱する。

(受入期間)

4 学外協力研究者の受入期間は2年とし、再任は妨げない。

(給与及び経費)

5 学外協力研究者にかかる給与及び必要経費については、博物館は負担しない。

(協力内容)

6 学外協力研究者は、博物館の職員と連携し、博物館の標本の整理・保管、その標本に基づく研究等のための協力を行うものとする。

(研究の公開)

7 学外協力研究者は、博物館の協力活動を通じて知り得た研究データ等を公開しようとする場合は、博物館長の承諾を得て行うものとする。

(活動中の事故)

8 学外協力研究者が活動中に不慮の事故を受けた場合は、それにかかる費用は本人が負担するものとする。

(その他)

9 この申し合わせに定めるもののほか、学外協力研究者に関する必要な事項は、運営委員会が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 この規則の施行前に委嘱された学外協力研究者の受入期間は、4の規定にかかわらず平成17年3月31日までとする。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年5月25日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

鹿児島大学総合研究博物館プロジェクト推進部会内規

（平成18年3月15日）
運営委員会決定

(設置)

第1条 鹿児島大学総合研究博物館（以下「博物館」という。）運営委員会規則第8条の規定に基づき、運営委員会にプロジェクト推進部会（以下「部会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 部会は、次の事業を行う。

- (1) 研究プロジェクトの企画・実施
- (2) 研究プロジェクトの推進を支援するための活動

(組織)

第3条 部会は、次の各号に掲げる部会員をもって組織する。

- (1) 博物館組織規則第7条第1項に規定する教員のうちから館長及び専任教員が選出した
部会長
- (2) 博物館組織規則第7条第1項に規定する教員のうちから館長・専任教員及び部会長が
認めた者 数名
- (3) 博物館長
- (4) 専任教員

2 部会員の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 部会員に欠員を生じた場合の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会長)

第4条 部会長は、部会を招集し、その議長となる。

2 部会長に事故があるときは、部会長があらかじめ指名する部会員がその職務を代理する。

(議事)

第5条 部会は、部会員の過半数の出席により成立する。

2 部会の議事は、出席部会員の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

(部会員以外の者の出席)

第6条 部会長が必要と認めるときは、部会員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 部会に関する事務は、総務部研究協力課において処理する。

附 則

1 この内規は、平成18年3月15日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

2 この内規の施行後最初に任命される第3条第1項第1号から4号に規定する部会員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、平成19年3月31日までとする。

鹿児島大学総合研究博物館企画交流部会内規

(平成18年3月15日)
(運営委員会決定)

(設置)

第1条 鹿児島大学総合研究博物館（以下「博物館」という。）運営委員会規則第8条の規定に基づき、運営委員会に企画交流部会（以下「部会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 部会は、次の事業を行う。

- (1) シンポジウム、研究会、公開講座等の企画・実施
- (2) 学外協力研究者の募集と情報交換

(組織)

第3条 部会は、次の各号に掲げる部会員をもって組織する。

- (1) 博物館組織規則第7条第1項に規定する教員のうちから館長及び専任教員が選出した
部会長
- (2) 博物館組織規則第7条第1項に規定する教員のうちから館長・専任教員及び部会長が
認めた者 数名

(3) 博物館長

(4) 専任教員

2 部会員の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 部会員に欠員を生じた場合の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会長)

第4条 部会長は、部会を招集し、その議長となる。

2 部会長に事故があるときは、部会長があらかじめ指名する部会員がその職務を代理する。

(議事)

第5条 部会は、部会員の過半数の出席により成立する。

2 部会の議事は、出席部会員の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

(部会員以外の者の出席)

第6条 部会長が必要と認めるときは、部会員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 部会に関する事務は、総務部研究協力課において処理する。

附 則

1 この内規は、平成18年3月15日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

2 この内規の施行後最初に任命される第3条第1項第1号から4号に規定する部会員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、平成19年3月31日までとする。

鹿児島大学総合研究博物館出版広報部会内規

(平成18年3月15日)
(運営委員会決定)

(設置)

第1条 鹿児島大学総合研究博物館（以下「博物館」という。）運営委員会規則第8条の規定に基づき、運営委員会に出版広報部会（以下「部会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 部会は、次の事業を行う。

(1) ニュースレター、広報、モノグラフ等の編集・刊行

(2) ホームページの編集・刊行

(3) その他博物館の行う出版広報活動

(組織)

第3条 部会は、次の各号に掲げる部会員をもって組織する。

(1) 博物館組織規則第7条第1項に規定する教員のうちから館長及び専任教員が選出した部会長

(2) 博物館組織規則第7条第1項に規定する教員のうちから館長・専任教員及び部会長が認めた者 数名

(3) 博物館長

(4) 専任教員

2 部会員の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 部会員に欠員を生じた場合の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会長)

第4条 部会長は、部会を招集し、その議長となる。

2 部会長に事故があるときは、部会長があらかじめ指名する部会員がその職務を代理する。

(議事)

第5条 部会は、部会員の過半数の出席により成立する。

2 部会の議事は、出席部会員の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

(部会員以外の者の出席)

第6条 部会長が必要と認めるときは、部会員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 部会に関する事務は、総務部研究協力課において処理する。

附 則

1 この内規は、平成18年3月15日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

2 この内規の施行後最初に任命される第3条第1項第1号から4号に規定する部会員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、平成19年3月31日までとする。

鹿児島大学総合研究博物館が関与する催しに対する共催・協賛・後援の取扱いに館する申合せ

(平成15年5月13日制定)

(趣旨)

1 鹿児島大学総合研究博物館（以下「博物館」という。）が関与する催しに対する共催・協賛・後援（以下「共催等」という。）の取扱いに関する基準について申し合わせる。

(定義)

2 この申合せにおける用語の定義は、次のとおりとする。

(1) 「共催」とは、第三者が主催する催しについて、主催者と共同でその催しを開催することという。

(2) 「協賛」とは、第三者が主催する催しについて、その趣旨に賛同し、応援、援助、する場合であって、協賛金等の費用負担など、後援に比べて、その催しへの関与の度合いが強い場合という。

(3) 「後援」とは、第三者が主催する催しについて、その趣旨に賛同し、応援、援助する場合であって、その催しへの関与が、原則として名義使用の承認に限る場合をいう。

(基準)

3 第三者が主催する催しについて、共催等の依頼があった場合の判断の基準は以下の通りとする。

(1) 共催等ができる場合

1) 公益性があると認められるとき。

2) 博物館の事業の目的及び内容に照らし、特に必要と認められるとき。

(2) 共催等ができない場合

1) 特定企業や団体の宣伝等少数者の利益のみを目的とすると認められるとき。

2) その運営方法が、公正でないと認められるとき。

3) その他、博物館の事業の目的及び内容に照らし、適当でないと認められるとき。

(手続き)

4 第三者が主催する催しについて共催等の依頼を受けた場合は、館長が、3の基準に基づきその可否を判断し、運営委員会にこれを報告するものとする。

(その他)

5 この申合せに定めるもののほか、共催等に関する必要な事項は、運営委員会が別に定める。

附 則

この申合せは、平成15年5月13日から施行する。

3 専門部会

- | | | |
|---------------------------------|------|------------|
| 1. プロジェクト推進部会 | 委員長 | 鈴木 廣志 (水産) |
| 土田 理 (教育)；中西 良孝 (農学)；宮本 句子 (理学) | 専任教員 | 本村 浩之 |
| 2. 企画交流部会 | 委員長 | 山根 正氣 (理学) |
| 大西 佳子 (医歯)；森脇 広 (法文)；日高 哲志 (多島) | 専任教員 | 落合 雪野 |
| 3. 出版広報部会 | 委員長 | 井村 隆介 (理学) |
| 米田 健 (農学)；山本 智子 (水産)；日隈 正守 (教育) | 専任教員 | 橋本 達也 |

4 2007年度の企画事業概要

6月30日(土) 13:30~15:30

第12回 研究交流会 「戦争遺跡・戦跡考古学を鹿児島で考える－太平洋戦争の考古学－」

講師：十菱 駿武（山梨学院大学教授・文化財保存全国協議会代表委員・戦争遺跡保存全国ネットワーク代表）

橋本 達也（鹿児島大学総合研究博物館）

場所：郡元キャンパス 総合教育研究棟203号室 無料

7月28日（土） 14：30～16：00

第12回 市民講座 「ブラックバス問題はどこへ向かうのか」

講師：瀬能 宏（神奈川県立生命の星・地球博物館主任研究員）

場所：総合教育研究棟2F 無料

7月29日（日）

第7回 自然体験ツアー 「池のさかなウォッチング-鹿児島県のさかなと外国のさかな-」

講師：瀬能 宏（神奈川県立生命の星・地球博物館主任研究員）

場所：ラムサール条約湿地藺牟田池（薩摩川内市祁答院町）

対象：おもに小学生とその保護者 30名

7月12日（火）～9月10日（月） 9：00～16：30

肝付町歴史民俗資料館 特別展 「古墳に眠る肝属の王－塚崎古墳群の時代－」

共催：肝付町教育委員会・鹿児島大学総合研究博物館

場所：肝付町歴史民俗資料館 入館料大人100円

9月2日（日） 13：30～15：00

神領10号墳 発掘調査現地説明会

場所：鹿児島県曾於郡大崎町横瀬 無料

10月27日（土） 13：30～16：30

IODPキャンペーン 大学講演会「IODPの概要 地球深部探査船「ちきゅう」」

講師：井龍康文（東北大学） 長谷部喜八（JAMSTEC）ほか

場所：郡元キャンパス総合教育研究棟201講義室 無料

10月15日（月）～11月15日（木） 10：00～17：00（期間中無休）

第7回 特別展 「鹿児島湾の自然史」

場所：郡元キャンパス総合教育研究棟2F プレゼンテーションホール

入場無料

10月4日（火）～12月18日（火） 10：00～17：00（水曜日休館）

国立民族学博物館開館30周年記念企画展 「植物のビーズ-つくって、つないで」

共催：国立民族学博物館、鹿児島大学総合研究博物館

場所：国立民族学博物館（大阪府吹田市）常設展示場内 企画展会場B

11月10日（土） 13：00～14：00

第4回 学内コンサート 「弦楽器とピアノの調べ」

violin：濱田佳寿江 cello：有村航平 pf：有村麗子

場所：郡元キャンパス総合教育研究棟1F エントランスホール 無料

11月10日（土） 14：00～16：00

第13回 市民講座 「鹿児島湾の生きものたち」

講師：寺田竜太・大富 潤・四宮明彦（鹿児島大学水産学部教員）

場所：郡元キャンパス総合教育研究棟203号室 無料

11月9日（金）～11月11日（日）

常設展示室 特別陳列 「曾於郡大崎町 神領10号墳出土遺物－はにわ現る 須恵器初公開－」

場所：総合研究博物館常設展示室 無料

12月8日（土） 13：30～15：30

第7回 公開講座 「生物多様性と小さな進化－イネを通して見た世界－」

講師：森島啓子（元国立遺伝学研究所教授、元東京農業大学教授）

場所：郡元キャンパス総合教育研究棟203号室 無料

5 2007年度の企画事業

1. 研究交流会

(1) 第12回 「戦争遺跡・戦跡考古学を鹿児島で考えるー太平洋戦争の考古学ー」

鹿児島県内には多くの戦争に関わる遺跡が残されている。もっとも著名なものは特攻基地として知られる陸軍知覧基地であるが、特攻基地だけでも県内には各所に存在することは、あまり知られていない。また、鹿児島市で中学生による地下壕での事故もあり、十分な調査がなされないまま封鎖や埋め戻しが行われる事例なども多い。これらの遺産にあらためて光を当て、歴史を学ぶ教材として活かし、伝えるためにはいかなる方法があるのか、全国的にはどのような取り組みがあるのか、6月30日（土）山梨学院大学教授で文化財保存全国協議会代表・戦争遺跡保存全国ネットワーク代表を務める十菱駿武氏を招いて研究会を開催した。

会でははじめ、総合研究博物館 橋本が、スライドによって鹿児島県内に残る太平洋戦争時の基地を中心とする戦争遺跡の紹介を行った。その後、十菱氏によって長野県松本大本営の保存をはじめ全国の事例に基づく、戦争遺跡の保存と活用について解説があった。

52名の参加者があり、会場はほぼ満席で、これまで身近にたくさんの遺跡があることを知らなかったことに驚きをもたれた方、あるいは太平洋戦争時の記憶をもって参加された方など、さまざまな反応があり活発な質疑応答があった。



十菱 駿武氏



第12回 研究交流会

2. 市民講座

(1) 第12回 市民講座 「ブラックバス問題はどこへ向かうのか」

神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能 宏氏を招いて、7月28日（土）午後2時30分から4時まで総合教育研究棟203号教室で開催された。参加者は18名。

近年、ブラックバスが日本の生態系に及ぼす影響について様々な論議が交わされている。ブラックバスの外来生物法特定指定に尽力した瀬能氏が、以下の7つのトピックを取り上げ、外来魚の実態をわかりやすく解説された。(1)ブラックバスとはどんな生物か？、(2)日本への導入経緯と拡散の現状、(3)特定指定を受けるまでの経緯、(4)生物多様性条約から外来生物法まで、(5)特定指定前後の反対勢力の動き、(6)特定指定後のとりくみ（防除の実態：国・自治体・環境NPO）、(7)今後の展望 環境復元と問題点。外来魚事情の最先端を知ることができ有意義な講座であった。本講座は、7月29日（日）開催の第7回自然体験ツアーの連動企画として実施された。



瀬能 宏氏



第12回 市民講座

(2) 第13回 市民講座 「鹿児島湾の生きものたち」

11月10日(土)午後2時から4時まで総合教育研究棟203号教室で、特別展「鹿児島湾の自然史」の一環として開催された。講師として鹿児島大学水産学部の寺田竜太氏、大富 潤氏、四宮明彦氏を招き、それぞれ海藻、甲殻類、魚類を中心に鹿児島湾の海底で繰り広げられている生き物たちの生活を紹介していただいた。小中学生でも理解できるよう分かり易く解説していただいたため、参加者は63名に達した。しかし、会場に入りきれずに聴講できなかった方々が30名を超えたのは残念であった。



寺田 竜太氏



大富 潤氏



四宮 明彦氏



第13回 市民講座

3. 公開講座

(1) 第7回 自然体験ツアー 「池のさかなウォッチングー鹿児島島のさかなと外国のさかなー」



案内書 (表紙)

7月29日(日)に薩摩川内市祁答院町蘭牟田池において、魚の採集、観察、試食を行った。小中学生とその保護者を対象に定員30名として参加者を募集したところ、68名の応募があり、反響の大きさから当初予定していた抽選を取りやめ、全員の受け入れを決定した。保護者を除く参加者全員に案内書(全16ページ;カラー印刷)を送付した。

開催当日に実際に何種の魚が、どのくらいの数採集されるのか、不確定な要素が大きいため、事前に同池でサンプリングを行い、採集された個体を冷凍にして当日、持参した。また、前日(28日)に蘭牟田池に刺網をしかけ、一晩おいて、当日(29日)に網をあげる作業を行った。

幸い当日は晴天で、予定通りのスケジュールで開催された。10:00に蘭牟田池に集合、10:00~10:20に受付、10:20~10:40に館長あいさつと神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能 宏氏による外来魚に関する解説を行った。10:40~12:30には参加者が親子で魚釣り、それと同時に(財)鹿児島県環境技術協会の米沢俊彦氏による刺網の引き上げが行われた。約200匹のブルーギル(特定外来魚)が参加者によって釣り上げられ、刺網にはカムルチーやフナ類など数十匹、最大で70cmほどの魚が水揚げされた。12:30~13:00に瀬能氏がこれらの魚の解説を行い、その後、参加者は昼食をとった。昼食中に博物館スタッフとボランティアは採集された魚の調理準備を始めた。

14:00から参加者は「いむた池自然レクリエーション村」に移動し、採集された魚の形態観察とスケッチを行った。その後、博物館ボランティアとNPO法人くすの木自然館の立山芳輝氏らの協力のもと、カムルチーとフナ類をフライに調理し、ソースとタルタルソースをつけて試食を行った。釣りで得られたブルーギルはから揚げにし、普段、魚を食べないという子供達も喜んで食べていた。特にフナのフライは臭みもなく、絶品であった。

今回の自然体験ツアーでは多くの外来魚を採集することができ、一見豊かな自然に囲まれた蘭牟田池も、その水中では外来魚の侵略が進んでいることを実感することができた。しかし、在来魚が1匹も採集されなかったことから、蘭牟田池は思った以上に深刻な段階にきていると感じた。

第7回自然体験ツアーの実行委員は次のとおり(敬称略)。瀬能 宏(神奈川県立生命の星・地球博物館)、(財)鹿児島県環境技術協会(米沢俊彦)、立山芳輝(NPO法人くすの木自然館)、高山真由美(鹿児島大学総合研究博物館ボランティア)、原口百合子(同)、伊東正英(同)、田中洋子(同)、馬込実枝(同)、目黒昌利(同)、荻原豪太(同)、松沼瑞樹(同)、大木公彦、橋本達也、福元しげ子、本村浩之(実行委員長)。





(2) 第7回 公開講座 「生物多様性と小さな進化－イネを通してみた世界－」

12月8日（土）、森島啓子氏を講師にむかえて第7回公開講座「生物多様性と小さな進化－イネを通してみた世界－」を開催した。開催場所は総合教育研究等203室、時間は13：30からの90分であった。

森島氏は国立遺伝学研究所名誉教授、元東京農業大学教授の植物遺伝学者である。約40年間にわたり、おもに生態遺伝学の立場から、イネ属（*Oryza*）の種分化や栽培稲の起源に関する研究に従事してきた。とくに、東南アジア、アフリカ、南アメリカでフィールドワークの経験が豊富である。また、国立遺伝学研究所では、イネ属の遺伝資源について、収集や保存の実務に携わってきた。

本講座で森島氏は、植物としてのイネ属の生態や進化の過程、また遺伝資源の多様性とその保全の意義などについて、研究やフィールドワークの経験をもとにわかりやすく解説して下さった。また、いっしょに数多くの見ごたえのある映像を提示して下さった。参加者は31名であったが、とくに関連分野である農学部の教員の参加が目立った。



森島 啓子氏



第7回 公開講座

4. 特別展 第7回 特別展 「鹿児島湾の自然史」

本特別展では、鹿児島湾に暮らす水生生物の多様性に焦点をあて、鹿児島湾の魅力に迫った。鹿児島湾は東京湾とほぼ同じ面積だが、東京湾の最も深いところは水深50mを超える程度であるのに対し、鹿児島湾は平均110m、最も深い所では230mにも達する。このため、鹿児島湾には浅海から深海に生息する多種多様な生物が生息している。海藻、有孔虫、プランクトンからサンゴ、貝、エビ、魚、イルカまでの様々な生物を生体、標本、映像を用いた多角的な展示に加え、鹿児島湾の生物や環境を調査・研究している専門家による研究成果をパネルで分かりやすく紹介した。

(1) 場所・期間・来場者数

総合教育研究棟 2F プレゼンテーションホール・10月15日～11月15日（30日間）・2476名

(2) 組織

「鹿児島湾の自然史」は生物多様性に焦点を絞ったものの、それでもテーマが壮大であるため、一人の力では成し遂げることは限界がある。そこで、本特別展は、鹿児島大学の各学部、他大学、水族館など、博物館の外部組織と連携することで開催が可能となった。以下に展示ブースの順路と同順に実行委員を列挙する（肩書きは当時）。①は所属、②専門分野、③は特別展で担当したテーマを示す。◎は実行委員長。

1) 第7回特別展 実行委員会

大木公彦 教授	①総合研究博物館②海洋地質学・堆積学③鹿児島湾の概要・鹿児島湾の底生有孔虫
寺田竜太 准教授	①水産学部水産学科②藻類学・応用藻類学・水産植物学③鹿児島湾の藻類多様性・藻場（w/山本智子）
小針 統 助教	①水産学部水産学科②生物海洋学・浮遊生物学③鹿児島湾のプランクトン（カイアシ類）
塚原潤三 教授	①理学部生命化学科②発生生物学・細胞生物学③鹿児島湾のサンゴ類多様性（w/小野修助）
福元しげ子 助手	①総合研究博物館③サツマハオリムシの分類・生態（w/塚原潤三）
佐藤正典 准教授	①理学部地球環境科学科②水生無脊椎動物学・環境生物学・底生動物学③鹿児島湾の底生無脊椎動物（干潟）
大富 潤 准教授	①水産学部水産学科②水産資源生物学・水産資源管理学・甲殻類学③鹿児島湾の深海性エビ類（分類・生態・資源など）・深海性魚類（w/本村浩之）
山本智子 助教	①水産学部附属海洋資源環境教育研究センター②動物生物学・群集生態学・海洋生物学③鹿児島湾の貝類（多様性・群集生態）②藻場（w/寺田竜太）
鈴木廣志 教授	①水産学部水産学科②海洋生物学・海洋生態学・生物地理学③鹿児島湾に流入する河川の甲殻類
櫻井 真 准教授	①鹿児島純心女子短期大学②魚類生態学③鹿児島湾の魚類生態（性転換・キビナゴ・カサゴなど）
増田育司 准教授	①水産学部水産学科②水産資源学・魚類学③鹿児島湾の主要魚類の生活史（年齢・成長・産卵など）
四宮明彦 教授	①水産学部水産学科②魚類生態学・海洋生物学③鹿児島湾の魚類生態（性転換などw/櫻井 真）・イルカ（w/広瀬 純）
◎本村浩之 准教授	①総合研究博物館②魚類分類学③鹿児島湾の魚類相など
広瀬 純 展示課	①いおワールド かがしま水族館③イルカ（w/四宮明彦）
野呂忠秀 教授	①水産学部附属海洋資源環境教育研究センター②水産植物学・藻類学・水産増殖学・海洋生物学③鹿児島湾の海洋観測



出羽慎一 ①ダイビングサービス海案内②ダイビング・水中写真③鹿児島湾に生息する生き物の水中写真

荻野洸太郎 館長 ①いおワールド かがしま水族館③生きた魚の展示・JAMSTEC鹿児島湾海底映像上映・イルカ類関係（w/広瀬 純・四宮明彦）

中畑勝見・山田守彦・大森純子 展示課 ①いおワールド かがしま水族館③生きた魚の展示・JAMSTEC鹿児島湾海底映像上映

高山真由美・原口百合子 ①かがしま水族館ボランティア③海産生物の標本作成法など（w/本村浩之）

2) 第7回特別展 補助委員会

落合雪野（総合研究博物館）・橋本達也（同）・西元暢子（同）・佐々木恵子（同）・岩井雄次（同）・博物館ボランティア

3) 第7回特別展 協力機関

鹿児島大学水産学部・同理学部・いおワールドかがしま水族館・鹿児島純心女子短期大学・ダイビングサービス海案内・折田水産・海洋研究開発機構

(3) 開催に向けた準備

特別展開催にむけた準備は、2006年11月から約1年かけて行われた。以下に実行委員会立ち上げから特別展初日までの大まかなスケジュールとともにボランティア学習会、オープニングセレモニー、報道関係についての詳細を記す。

1) 準備日程表

2006年11月6日	特別展実行委員会を組織
2006年11月17日	展示標本・資料・写真の収集開始
2006年11月22日	外部機関に所属する実行委員へ依頼公文書を作製・送付
2006年12月11日	総合教育研究棟2階プレゼンテーションホールを2007年10月9日～11月24日まで予約（前後の数日間では会場の設営・撤去にかかる日数込み）
2007年1月16日	総合研究博物館News Letter No. 17の原稿締切を7月27日に設定・依頼文送付
2007年5月7日	鹿児島市内の全ての高校と一部の中学校に特別展開催の案内書を送付
2007年5月7日	市民講座「鹿児島湾の生きものたち」の講師3名に依頼公文書を送付
2007年5月28日	News Letter No. 17の原稿投稿規程や各人のページ配分を連絡
2007年6月15日	ポスター用写真の募集案内
2007年6月21日	鹿児島県内の68高校と180中学校に特別展開催の案内書を送付
2007年7月9日	市民講座「鹿児島湾の生きものたち」の詳細（時間や内容など）が決定
2007年7月20日	News Letter No. 17の原稿締切を7月27日から8月1日に延期
2007年7月23日	特別展第1回打合せの開催日が8月8日に決定
2007年8月2日	会議資料準備項目の案内と依頼

2007年8月3日	News Letter No. 17のDTP完成
2007年8月4日	News Letter No. 17掲載写真の解像度・フォーマット・著作権の確認
2007年8月6日	ポスターグラ刷り完成
2007年8月8日	18:00～特別展打合会議を開催
2007年8月15日	ボランティア学習会開催決定・日程調整開始
2007年8月20日	保健管理センターからノートPCを5台借用
2007年8月21日	パネル作製案内・ボランティア学習チラシ作製・配布
2007年8月28日	News Letter No. 17の著者校正（著者20名に発送）
2007年8月31日	第1回ボランティア学習会
2007年9月4日	人文研究科・多島研から展示パネル借用。各委員への割り当て（サイズ・枚数）
2007年9月7日	第2回ボランティア学習会
2007年9月12日	水産学部・水族館所蔵の標本・資料の運搬
2007年9月12日	ポスター PDFバージョン完成・配布
2007年9月14日	第3回ボランティア学習会（講師：増田・山本・寺田）
2007年9月15日	鹿児島大学附属小学校・中学校に開催案内公文書発送
2007年9月17日	博物館ボランティアと展示標本や解説カードの準備開始
2007年9月18日	News Letter No. 17出版
2007年9月21日	第4回ボランティア学習会
2007年9月25日	水産学部図書館から仕切りパネル借用
2007年9月27日	鹿児島市教育委員会発行の「キッズ通信アクト」に特別展の案内が掲載、市内各小中学校の生徒全員に配布
2007年9月28日	第5回ボランティア学習会
2007年10月2日	実行委員による解説カードの作製締切
2007年10月5日	鹿児島市路面電車の全車両に特別展のポスターが掲示
2007年10月9日	会場設営開始（展示台やケースの設置）
2007年10月10日	展示標本・資料の配置
2007年10月11日	会場の電気配線工事。イルカ骨格配置
2007年10月12日	パネル設置
2007年10月13日	水槽設置
2007年10月15日	特別展初日。オープニングセレモニー

2) ボランティア学習会

特別展は、準備段階から開催期間中、終了後の撤収までボランティアの協力なくしては実現が難しい。特に開催期間中は担当の教員が会場に張り付いていることができないため、ボランティアが来場者への解説や案内、貴重な機材や標本資料の監視を担当した。ボランティア自身が展示標本・資料とその内容・意味をよく理解していなければ、来場者に分かり易く解説することができない。そのため、本特別展では開催前に各実行委員を講師として計5回のボランティア学習会を開催し、展示に関わる知識を学んでもらった。学習会の日程と講師（敬称略）は以下のとおり。

第1回学習会： 8月31日（金） 18：00～ 大木・小針・広瀬

第2回学習会： 9月7日（金） 18：00～ 塚原・佐藤・福元

第3回学習会： 9月14日（金） 18：00～ 増田・山本・寺田

第4回学習会： 9月21日（金） 18：00～ 櫻井・大富

第5回学習会： 9月28日（金） 18：00～ 野呂・四宮・鈴木

3) 広報

特別展成功のカギの一つは広報活動であるため、本特別展では広報活動にも力を注いだ。本特別展のための広報活動および告知の結果は以下のとおり。

鹿児島市内のほぼ全ての高校・中学校に開催案内書を送付

鹿児島県内の68高校と180中学校に開催案内書を送付
 鹿児島大学附属小学校・中学校に開催案内書を送付
 鹿児島市教育委員会発行「キッズ通信アクト」に開催案内が掲載、市内各小中学校の生徒
 全員に配布

鹿児島市路面電車の全車両にポスターを掲示

鹿児島県内の主な施設・行政機関にポスターを掲示

TJ鹿児島

朝日新聞：学芸員コーナー「鹿児島湾の魅力に迫る特別展 鹿児島大学総合研究博物館」

10月6日

鹿児島放送：10月9～11日の3日間、11：15～11：25の間に特別展の告知

NHK昼前クルーズ鹿児島：11：45～で毎日告知

南日本新聞：「鹿児島湾で新属の魚採集クロユリハゼ科 鹿大が標本展示」10月16日

毎日新聞：「鹿児島湾に新属の魚？水中写真家、出羽さん採取」10月19日

NHK鹿児島：「鹿大博物館で鹿児島湾の自然史展」10月22日（3回放送）

南日本新聞：「鹿児島湾の生物一堂 鹿児島大で「自然史」展」10月30日

鹿児島放送：「大学に博物館……特別展が好評」かごしまスーパーJチャンネル11月5日

リビングかごしま：「てくてく荒田～学びと発見！学生気分でのんびり散歩～」11月10日

4) オープニングセレモニー

10月15日(月) 10：00から、学長、理事、事務官、実行委員に加え、佐藤実行委員の学生80名、NHK鹿児島と南日本新聞の取材陣が集まる中、オープニングセレモニーが盛大に行われた。学長と理事への解説は、塚原委員、野呂委員、佐藤委員、櫻井委員、山本委員、大森委員、本村委員長によって行われた。

(4) 展示資料の概要

鹿児島湾の生物標本と生体、および生物に関する資料や模型、映像をおよそ400点展示した。

1) 生体展示

・サンゴ(サンゴの白化現象観察用。しかし、水槽環境が良かったのか、特別展後半になると白化サンゴが健康な状態に回復)・タギリカクレエビ(鹿児島湾の海底でサツマハオリムシと暮らすエビ。水槽飼育が公開されたのは世界初)・サツマハオリムシ(エサとして硫化水素を毎日与えた)・干潟の生物(ゴカイや貝類)・オキナワベニハゼ(性転換する魚)

2) 標本展示

・海藻(乾燥)・海藻に生息する小型生物(液

鹿児島大学総合研究博物館 第7回特別展
鹿児島湾の自然史
 —Exploring the Biodiversity of Kagoshima Bay—
 博物館ボランティア学習会

第1回学習会： 8月31日(金) 18:00～ 大木・小野・広瀬
 第2回学習会： 9月 7日(金) 18:00～ 塚原・佐藤・稲元
 第3回学習会： 9月14日(金) 18:00～ 山本・山本・寺田
 第4回学習会： 9月21日(金) 18:00～ 西宮・櫻井・大森
 第5回学習会： 9月28日(金) 18:00～ 野呂・佐藤・出羽

2007年10月15日～11月15日に第7回特別展が開催されます。博物館ボランティアのみなさま、後援団体、事前準備と開催期間中のお手伝いをよろしくお願いいたします。特別展の目的を理解・勉強するために上記の日程で学習会を行います。各回3名の講師(特別実行委員)に1人30分程度で展示テーマについての解説をしていただきます。講師とテーマは以下のとおりです。
 ※今年度の特別展への尽力をよろしくお願いいたします。

学習会講師	展示テーマ
大木 広樹	総合研究博物館・館長 鹿児島湾の概観 鹿児島湾の産性有孔虫
寺田 敬弘	水産学部・准教授 鹿児島湾の産性多様性 産性有孔虫と生体有孔虫 (w/山本)
小野 純	水産学部・助教 鹿児島湾のプランクトン (カイアシ類)
塚原 達三	鹿児島大学・名誉教授 鹿児島湾のサンゴ礁多様性
稲元 しのぶ	総合研究博物館・助手 鹿児島湾のサンゴ礁の生態 鹿児島湾のサンゴ礁の生態とサンゴの生態 (w/山本)
山本 正典	理学部・准教授 鹿児島湾のサンゴ礁 (サンゴ・サンゴ礁の生態とサンゴの生態 (w/山本))
山本 正典	水産学部・教授 鹿児島湾のサンゴ礁 (サンゴ・サンゴ礁の生態とサンゴの生態 (w/山本))
山本 正典	水産学部・教授 鹿児島湾のサンゴ礁 (サンゴ・サンゴ礁の生態とサンゴの生態 (w/山本))
大森 博	水産学部・准教授 鹿児島湾の産性有孔虫 (産性・生態・産性など) 産性有孔虫
西宮 明彦	水産学部・教授 鹿児島湾の産性有孔虫 (産性・生態・産性など) 産性有孔虫
櫻井 貴	鹿児島大学・准教授 鹿児島湾の産性有孔虫 (産性・生態・産性など) 産性有孔虫
本村 浩之	総合研究博物館・館長 鹿児島湾の産性有孔虫 (産性・生態・産性など) 産性有孔虫
出羽 一	ダイビングサービス海軍内 鹿児島湾の産性有孔虫 (産性・生態・産性など) 産性有孔虫
広瀬 純	いりふりふりかごしま支部 鹿児島湾の産性有孔虫 (産性・生態・産性など) 産性有孔虫
野呂 忠彦	水産学部・教授 鹿児島湾の産性有孔虫 (産性・生態・産性など) 産性有孔虫

鹿児島大学総合研究博物館 〒890-0065 鹿児島市都立1-21-30
 Tel. 099-285-8141 Fax 099-285-7267
 URL: http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/



オープニング

浸)・カイアシ類・有孔虫(乾燥)・サンゴ類(液浸・乾燥)・干潟の無脊椎動物(液浸・乾燥)・エビ類(液浸)・カニ類(液浸)・貝類(液浸・乾燥)・頭足類(液浸)・魚類(液浸・耳石・骨格など)・イルカ(骨格)など約400点。

3) 模型・機器展示

- ・鹿児島湾の海底模型(明治時代と現在)
- ・水産学部南星丸の模型・海洋観測機器

4) 映像・写真展示

- ・鹿児島湾の魚類標本写真・鹿児島湾の生物水中写真・鹿児島湾のたぎり映像・イルカ調査映像



(5) 特別展を振り返って

本特別展の来場者は2476名にのぼり、企画としては大成功であった。多くの専門家が連携し、それぞれの実行委員が広報活動をおこなったことが第一の要因であろう。また、各実行委員に良い展示をしていただいたおかげでリピーターが多かったこともあげられる。しかし、実行委員長は開催前の約半年間を完全に本特別展の準備に費やした。労力と人件費を考えると数千人規模の来場者ではまだ不十分と感じる。今後は日時や場所を含めた開催方法の根本的な改革が必要かもしれない。

本特別展では2種類のアンケート調査を行った。1つは「鹿児島湾の魅力を一般市民に伝えるためのアイデア」で、結果は櫻井・本村(2008)「Nature of Kagoshima 34:17-19」で報告された。もう1つは、特別展に関する感想である。感想アンケートの回答数は200名で、学内90名、学外110名であった。学外のうち、鹿児島市内が78名、鹿児島県内(鹿児島市を除く)が15名、鹿児島県外が7名であった。

「一番印象に残った展示」としてアンケートで回答されたものは以下のとおり(複数回答あり)。

- ・魚類液浸標本×61名(標本ビン入×40名・触ることができる軟骨魚類の標本×21名)
- ・サツマハオリムシ×42名　・イルカ×22名(骨格標本×17名・パネル×5名・調査映像×1名)
- ・サンゴイソギンチャク×15名　・鹿児島湾の3D模型×12名
- ・エビ類×11名(ナミクダヒゲエビ×6名・タギリカクレエビ×3名・テナガエビ×2名)
- ・水槽で再現された干潟×8名　・性転換するベニハゼ類×7名
- ・魚類の生態・資源学的研究×7名　・魚類標本の作成方法×4名
- ・水中写真×4名　・顕微鏡で観察したプランクトン×3名
- ・キビナゴの卵×2名　・海藻・海草×2名　・タコブネ×2名　・アオイガイ×2名
- ・有孔虫・星砂×2名　・クマソハナダイ×2名　・鹿児島湾内の海流　・ヒラタブンブク
- ・透明骨格標本　・潮感帯の貝類

圧倒的多数の標本を展示した魚類を除くと、生体を水槽展示したものが印象に残っているようである。水槽展示では水族館にはかなわないが、それぞれの水槽展示に研究成果や最新の知見をパネルを添えて解説したのが大学博物館ならではの良さであるという感想もみられた。また、個別の展示を選ぶのではなく、全体を通して、鹿児島湾の生物多様性に対する理解が深まったという感想もあった。これは本特別展の趣旨でもあり、このような感想が聞かれたのはうれしい限りである。

最後に、11月22日に特別展実行委員、補助委員、博物館ボランティアで打ち上げを開催し、第7回特別展を締めくくった。



鹿児島湾の概要－解説パネル



鹿児島湾－立体図展示



鹿児島湾の海藻－解説パネル



鹿児島湾の海藻－乾燥標本展示



ガラモ場の動物－液浸標本展示



鹿児島湾のプランクトン－標本展示と解説パネル



鹿児島湾の有孔虫－標本展示と解説パネル



鹿児島湾のサンゴ類－解説パネルとサンゴイソギンチャクの生体展示



鹿児島湾のサンゴ－液浸・乾燥標本展示



サツマハオリムシー生体展示、乾燥・液浸標本展示、解説パネル



サツマハオリムシー餌展示



ゴカイ生体展示



鹿児島湾の干潟の生き物－解説パネル



鹿児島湾のウミケムシとオニイソメ－液浸標本展示



鹿児島湾の干潟の生き物－液浸・乾燥標本展示



鹿児島湾の深海底生物－液浸標本展示



鹿児島湾の深海底魚類と甲殻類－解説パネル



ナミクダヒゲエビ解説パネル



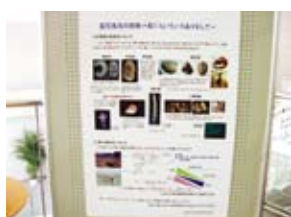
タギリカクレエビ解説パネル



タギリカクレエビ生体展示



南星丸－模型展示



鹿児島湾の貝類－解説パネル



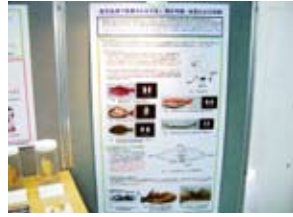
鹿児島湾の潮感帯の貝類－乾燥標本展示



鹿児島湾知林ヶ島周辺の貝類－乾燥標本展示



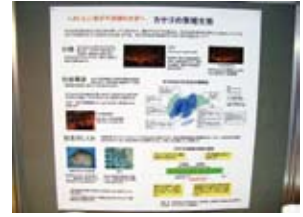
鹿児島湾に注ぐ河川に生息する甲殻類－液浸標本展示



鹿児島湾の商業魚種の資源学的研究－解説パネル



鹿児島湾の商業魚種の資源学的研究－液浸・乾燥標本展示



鹿児島湾のカサゴの繁殖生態－解説パネル



鹿児島湾のキビナゴの生活史－解説パネル



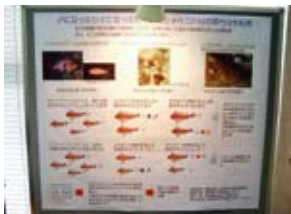
鹿児島湾のキビナゴの生活史－液浸標本展示



鹿児島湾のガザミ類－解説パネル



鹿児島湾の頭足類と甲殻類－液浸標本展示



双方向性転換魚類－解説パネル



性転換するオキナワベニハゼ－生体展示



鹿児島湾の魚類－液浸標本展示



鹿児島湾の小型魚類－液浸標本展示



鹿児島湾の魚類－標本写真展示



クマソハナダイ・クロユリハゼ科－解説パネル



鹿児島湾で発見された未記載属・種－液浸標本展示



鹿児島湾の魚類－透明標本展示



軟骨魚類観察方法－解説パネル



触れる軟骨魚類－液浸標本展示



鹿児島湾のイルカ－骨格標本展示



鹿児島湾におけるイルカ調査－解説パネル



鹿児島湾のイルカ－調査映像上映



鹿児島湾の3D模型（過去と現在）



鹿児島湾の生き物－水中写真真展示



来場者にプレゼントしたオリジナル絵葉書8種

5. その他の活動

(1) 肝付町歴史民俗資料館 特別展「古墳に眠る肝属の王―塚崎古墳群の時代―」

鹿児島県肝属郡肝付町では2004年度より、塚崎古墳群の範囲確認調査を継続して行っており、その過程で古墳に関する新たな発見が相次いでいる。2006年度、総合研究博物館では特別展において「発掘！鹿児島古墳時代」を開催したが、肝付町教育委員会からその展示を参考に塚崎古墳群の調査成果を中心とする大隅地域の古墳時代に関する特別展を肝付町歴史民俗資料館において開催したいので協力を欲しい旨の要請が総合研究博物館に寄せられた。

これを受けて、肝付町歴史民俗資料館特別展を肝付町教育委員会と鹿児島大学総合研究博物館の共催で開催することとなった。なお、本資料館自体はもとより大隅地域で歴史展示の特別展は初めての開催である。総合研究博物館では、展示解説パンフレットの作成に協力するとともに、展示の構成からパネルやキャプションの作成、資料の梱包・搬送の技術など展示に関わるさまざまな技術を肝付町教育委員会の方々に身につけていただくための講習も行った。また、展示に用いた資料の復元や写真撮影・図化作業などにも協力している。



(2) 神領10号墳 発掘調査現地説明会

総合研究博物館 橋本は科研費若手研究Aによって、8月17日～10月5日まで曾於郡大崎町の前方後円墳、神領10号墳の発掘調査を実施した。2007年度の調査では、前方後円墳のクビレ部において土器を用いた祭祀空間の発掘調査を行った。大量の埴輪や土器が良好に祭祀の状況を保って出土した。

その調査成果を現地で一般に広く公開するために現地説明会を9月2日に開催した。現地説明会に先だって8月30日に記者発表を行っている。現地は交通の便が悪いところではあるが、約130人の参加者があった。なお、報道機関への情報通知、現地説明会時の駐車場整理など開催にあたっては、大崎町教育委員会をはじめ大崎町の関係機関から多くの協力を得られた。また、古墳の地主、近隣住民の方々にもご理解・ご協力を得られたことが円滑な開催につながっている。

調査の進展に伴って、9月2日時点よりもさらに土器が配列された良好な出土状況が確認されたため、9月22日にあらためて、記者発表を行っている。



(3) 大学講演会第16回 IODP大学&科学館キャンペーン in 鹿児島

IODP（統合国際深海掘削計画）は日本とアメリカが中心となって海洋海底掘削を押し進めて

いるプログラムで、その広報キャンペーンが全国の大学・科学館で開催されている。鹿児島ではキャンペーン講演会が2007年10月27日鹿児島大学（総合教育研究棟2階201室）、10月28日に鹿児島県立博物館で行われた。（日本地球掘削科学コンソーシアム・海洋研究開発機構主催、文部科学省後援）

鹿児島大学会場では総合研究博物館の全面的な協力体制のもと、地球深部探査船「ちきゅう」の模型や関連資料の展示を行った。第7回特別展会期中ということもあり、地球科学のみならず他分野に興味をもった学生・市民が多数参加した。

講演会プログラム

司会：中尾 茂（鹿児島大学理学部地球環境科学科・総合研究博物館兼務教員）

13：30 開会の挨拶 鹿児島大学学長：吉田浩己

13：40 ビデオ上映「地球の記憶を掘り起こせ！」

13：55 IODPの目指すところ ～IODPにおける我が国の科学戦略とJ-DESCの役割～
J-DESC・高知大学海洋コア総合研究センター：池原 実

14：20 IODP乗船研究へのお誘い
東北大学大学院理学研究科：井龍康文

15：00 地球深部探査船「ちきゅう」解説
海洋研究開発機構：長谷部喜八

15：20 「ちきゅう」におけるテクニシヤンの仕事
マリン・ワーク・ジャパン：宮本元行

15：40 海洋地質研究の醍醐味 鹿児島大学総合研究博物館：大木公彦

16：05 質疑応答

閉会の挨拶 文部科学省研究開発局海洋地球課：宿利一弥



池原 実氏



井龍 康文氏

(4) 国立民族学博物館開館30周年記念企画展 「植物のビーズ—つくって、つないで」

2007年10月4日から12月18日にかけて、国立民族学博物館開館30周年記念企画展「植物のビーズ—つくって、つないで」が開催された。この展示会は、大学共同利用機関である国立民族学博物館と大学博物館である鹿児島大学総合研究博物館が初めて共催した展示企画となった。

民博側では同館文化資源研究センターの野林厚志准教授が実務を担当し、情報企画課職員の参加のもと、館蔵資料と会場のファシリティ、展示ノウハウなどを提供し、また広報をおこなった。鹿大博物館側では落合雪野准教授が展示会の企画、モノ資料とそれにもとづいた展示コンテンツの提供を担当した。この企画の発端は、2005年11月に、野林准教授が鹿児島大学総合研究博物館第5回特別展「植物のビーズ—おしゃれ！ジュズダマ」を見学したことにある。特別展のコンテンツや資料の内容を確かめた野林准教授が、この体験をもとに展示会の共催を呼びかけたのである。

さらにこの企画展を、資料とスタッフが移動して各地で展示会をつくるプロジェクト「トラベリング・ミュージアム」の大阪での開催機会と位置づけ、そのプロジェクト・メンバーが企画やデザインに参加した。佐藤優香（国立歴史民俗博物館助教）は会場におけるやりとりのデザインとワークショップの企画を、久保田徹（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任講

師)はエントランスのアニメーション作品、研究者へのインタビュー映像、トラベリング・ミュージアムの紹介映像の製作を、上まりこ(ウエマリコオフィス、デザイナー)は広報と会場の空間のデザインをそれぞれ担当した。

展示資料の中心は、ジュズダマ属植物の種子を利用してつくったモノの資料である。落合による収集資料と民博の収蔵資料から厳選した157点を展示し、植物の分布域の広がりや伝統的な利用法を網羅しつつ、現代的な利用法についても紹介した。また、資料の製作地と会場をむすぶ営みとしてのフィールドワークに着目し、研究活動そのものについて表現するため、民族植物学の手法を紹介するパネルや映像資料によって会場を構成した。さらに、パンフレット(A5判12ページ)を配布し、コンテンツ理解の手がかりとした。関連イベントとして、ギャラリートークとワークショップを5回にわたって開催し、来場者の鑑賞を支援した。

会場は国立民族学博物館企画展示場Bに設け、常設展示場の入場料で見学できる設定にした。したがって企画展単独の来場者数を特定することはできないが、常設展示場への来館者数は10月4～30日が4,826人、11月が24,017人、12月1～18日が5,714人であった。

今回の企画展開催では、博物館のコラボレーションによって、展示コンテンツの発展的な活用や展示に関するスキルの向上を実現できたことが最大の成果であったといえよう。企画展終了後には、この経験を他の博物館関係者と共有すべく、文化資源研究センター主催の研究会の場での検討がはかられている。

(5) 第4回学内コンサート 「弦楽器とピアノの調べ」

11月10日(土)、午後4時15分から5時まで、濱田佳寿江氏(バイオリン)、有村航平氏(チェロ)、有村麗子氏(ピアノ)を招いて第4回学内コンサートを総合教育研究棟1Fエントランスホールで開催した。この学内コンサートは特別展「鹿児島湾の自然史」の一環として行われたもので、80名をこえる参加者が弦楽器とピアノの美しい音色を楽しんだ。



(6) 特別陳列 「曾於郡大崎町 神領10号墳出土遺物ーはにわ現る 須恵器初公開ー」



例年、常設展示室は大学祭期間中に多くの見学者が訪れる。そこで、さらに多くの見学者を呼び込み、またリピーターにも見学していただけるように、11月9日～11日までの3日間、展示室の一部の資料を交換する特別陳列を実施した。

資料には2006年・2007年の発掘調査で出土した神領10号墳の出土土器・埴輪を用いた。発掘調査で出土して間もないもので速報展示の性格を兼ね合わせており、また良好な資料を多く用いたため、広く関心を集める展示効果はあったものと考えている。

6 常設展示室

(1) 入館者数（総計・月別・曜日別）

2007年度の総入館者数は2006年度に比べ、581名増加した。これは、団体見学者の増加によるところが大きく、2006年度の団体見学者数が587名だったのに対して、今年度は1083名に増えている。月別では、例年どおり大学祭が開かれる11月が多く、大学祭開催中の土曜日、日曜日は合わせて315人の来館がみられ、また、高校生の団体見学も今年度は特に多かった。1年間の入館者数の推移は、例年と変わらず、4月の新生のキャンパス見学による訪問、6月・8月、10月から12月は、高校生や高校PTAの大学訪問、大学の講義や研修などの団体利用で入館者数が多く、9月、1月から3月は、大学の休業時期の影響もあり、入館者は減少傾向にある。

常設展示室 月別入館者数

2007年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(人)
総入館者数	204	97	147	95	231	48	159	914	143	84	82	50	2254
団体人数	133	25	105	66	138	0	53	446	71	25	17	4	1083
開館日	20	20	22	20	20	21	22	21	18	17	21	20	242

曜日別では、下の表に見られるように水曜日が最も多く、土曜日が少ない。これは団体見学者の来館日により差が生じている。土曜日の11月の来館者が特に他の月と比べ多いのは大学祭や特別展開催のためである。

常設展示室 曜日別入館者数

2007年度

	火	水	木	金	土
4月	50	10	58	10	10
5月	46	19	11	16	5
6月	57	7	40	34	9
7月	24	53	8	7	3
8月	85	12	53	58	23
9月	7	6	3	24	5
10月	44	35	48	20	12
11月	33	415	14	91	158
12月	10	27	66	23	17
1月	13	43	19	5	0
2月	6	36	6	32	2
3月	8	13	6	11	12
合計(人)	383	676	332	331	256

※ 但し、通常開館日以外の特別開館のため276名の入館があった。
(日曜日162名 月曜日114名)

(2) 利用・活用状況

総入館者数のうち、団体入館者は1083名であった。今年度も大学関係では講義や博物館実習、職員研修、生涯学習での利用が多かった。また、キャンパス構内で発掘作業が長期間行われていたため、埋蔵文化財調査室の主催で作業員の研修が常設展示室で行われた。作業員の中には、作

業が進むにつれて、展示されている構内出土の土器を見学に、何度も自主的に来館される熱心な姿も見られた。また、11月9日(金)～11月11日(日)にかけて、常設展示室1階にて「曾於郡大崎町 神領10号墳出土遺物－はにわ現る 須恵器初公開－」の特別展示が行われ、通常より多くの見学者が訪れた。

学外からは特に高等学校の生徒による見学が増加したが、例年多かった高等学校PTA研修が減少した。また、高校生ではインターシップの利用もあった。

主な団体見学者名

鹿児島大学関係

工学部新入生施設見学 法文学部人文科学基礎 工学部建築学科建築演習 教育学部博物館実習事前授業 理学部博物館資料論 教育センター・オープンクラス施設見学 大学職員研修 埋蔵文化財調査室 シニア留学受講生 オープンキャンパス受講生 大学経営協議会委員 附属小職員研修 附属中三年総合学習 附属小学校一年ろ組 附属小学校三年

中学校・高等学校関係

鹿児島市立伊敷台中学校 池田学園池田高校 鹿児島県立開陽高校 鹿児島県立川辺高校 鹿児島県立国分高校 鹿児島県立薩摩中央高校 鹿児島県立志布志高校 鹿児島県立川薩清修館高校 鹿児島県立枕崎高校 宮崎県立福島高校 宮崎県立西高校 熊本マリスト学園PTA 垂水市立垂水小学校PTA

その他

大崎町教育委員会社会教育課 薩摩金山私学校 賢治の会

(3) 室内環境

下の表にみられるように、前年度に比べ平均温度が1～2度高いが、湿度が梅雨や秋の長雨の頃に高くなり、冬場は低温乾燥傾向にあるという例年並みの結果となった。空調は24時間4台の空調機を使用しているが、昭和3年に書庫として建てられた建物を改装し、展示室として利用しているため、温湿度の管理はできていない。また、植物園に隣接することから、室内には、夏場に蚊・小蠅・毛虫・蜘蛛等が入りやすく、蟻の侵入もみられるが、たくさんの樹木に囲まれ、木立に集う四季折々の野鳥がさえずる声が聞こえてくる。環境としては、たまに、救急車のサイレンや車のスピーカー音などが聞こえるが、街中であって静寂で、キャンパスの喧騒も無縁である。静かにじっくり展示鑑賞ができることが長所である。

常設展示室 月別温湿度

2007年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1階ケース 温度 (℃)	19.5	25.6	25.2	26.5	26.2	26.1	22.5	18.8	15.7	14.7	15.2	18.1	22.8
1階ケース 湿度 (%)	67.3	68.9	75.9	67	57.6	65.3	69.1	70.9	68.3	68.5	57.5	61.2	66.5
2階ケース 温度 (℃)	19.5	26.4	24.5	24.9	25.4	26.3	22.0	18.5	16.4	17.1	16.8	18.2	21.3
2階ケース 湿度 (%)	72.5	75.2	80.2	76.5	67.2	76.8	78.2	73.5	70.9	71.0	56.5	65.7	72.0

(4) アンケート

全入館者の一割強の240名から、アンケートにお答えいただいた。前年までに比べ、鹿児島大学関係者の記入がかなり減少し、鹿児島市内に在住する入館者からの回答が増加している。年齢や展示室を知った理由は、「人にすすめられて」が一番多く、その他の理由では、「たまたま、通

りがかり」「偶然みつけた」などが多かった。感想では、例年に比べ「大変良い」「良い」の回答が若干減っている。また、アンケート項目が無回答のままである場合も増えた。

感想・要望では、展示に興味関心を持ち、「わかりやすかった」「おもしろかった」との声が多く、また、「建物の雰囲気が気に入った」という感想もみられた。要望では、「展示の数を増やして欲しい」「動植物など他の分野の展示」が見たいとの声や、「もっと市民や学生にPRして欲しい」と広報を望まれる意見が今年度は特に多かった。展示室を知った理由項目でも、「看板」や「人にすすめられて」などが多数を占め、「新聞」「テレビ」などが少ないことから、公共機関を通じた広報をもっとして欲しいという意見が多かったと思われる。

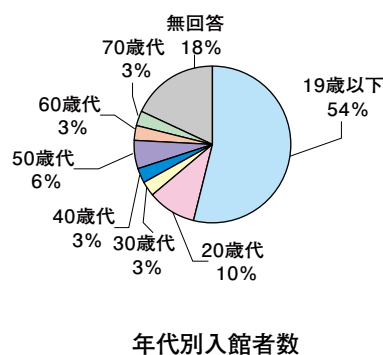
アンケート集計結果

1) 性別

男 143名 女 97名

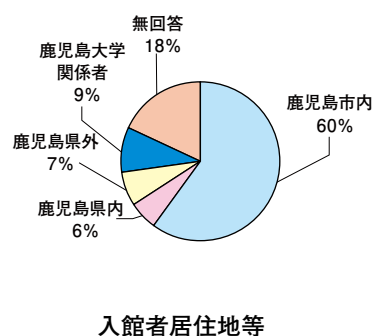
2) 年齢

19歳以下	128名
20歳代	25名
30歳代	7名
40歳代	8名
50歳代	15名
60歳代	8名
70歳代	7名
無回答	42名



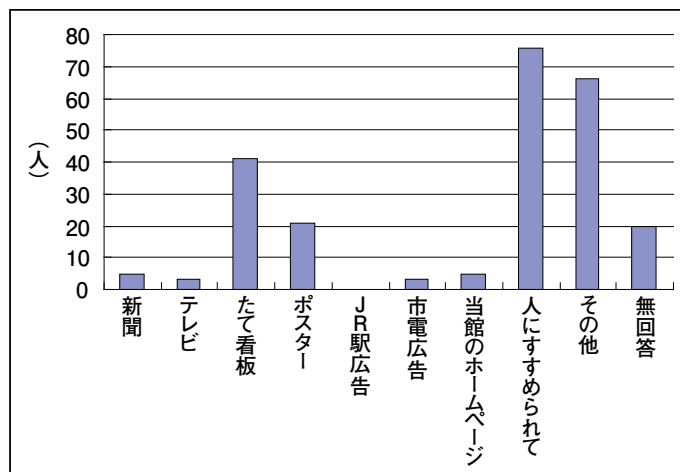
3) 居住地

市内	144名
市外	14名
県外	16名
大学関係者（学生・教職員）	22名
無回答	44名



4) 理由

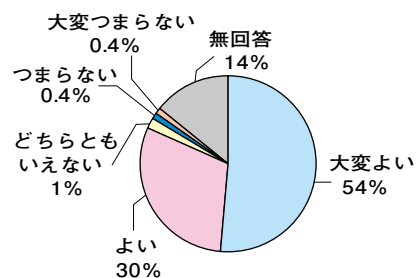
新聞	5名
テレビ	3名
たて看板	41名
ポスター	21名
J R 広告	0名
市電広告	3名
当館のホームページ	5名
人にすすめられて	76名
その他	66名
(たまたま・通りがかり・散歩中・大学祭に来てなど)	
無回答	20名



常設展示室を知った方法

5) 感想

大変よい	129名
よい	73名
どちらともいえない	3名
つまらない	1名
たいへんつまらない	1名
無回答	33名



感想

意見・要望

博物館について全般的な感想

- ・設備、展示内容ともに大変よく整理されていて、見ていて充実した時間をすごすことができました。学内にこうしたスペースがあると気づき何か得した気分です。また是非来館させて頂きたいと思います。
- ・こんな場所があるなんて知りませんでした。石ばかりだなと思いました。また、時間があるときにゆっくり来ます。
- ・面白いものがたくさんありました。色々な発見ができてよかったです。
- ・鹿児島大学に歴史的資料があるとは知りませんでした。感動しました。
- ・また来たいです。 ・今度は家族と一緒に来たいと思いました。 ・おもしろかったです。
- ・すごくきれいに展示してあって、分かりやすくて、興味のわくものが多かった。
- ・珍しい物が見学できました。古くからたくさんものがあるのだから歴史を感じました。
- ・現物をみるだけでなく手にとって触れるのが、他の博物館と違いよかったと思う。
- ・実物を手にとって観察できるのがよかった。子どもの学習になると同時に、大人も学べてよい。
- ・子どもも手を出せる所が良かったです。 ・展示業者に頼らない手作りの展示がとてもよい。
- ・小規模のようであるが、内容がとても豊かですばらしいと思います。
- ・資料が揃っているのにおどろきました。またお伺いしたいと思います。
- ・とてもわかりやすかったです。
- ・いろいろと参考になり、とってもきれいです。説明もわかりやすかったです。友達にも、すすめます。
- ・説明していただいて参考になりました。 ・特にoffice girlの接待がよかった。
- ・勉強になりました。 ・幅広く展示してあり参考になりました。
- ・研究が企業と結びついて利益を出されることをお祈りします。 ・Very nice!
- ・思っていたより楽しく拝見しました。展示物は時々変わるのでしょうか。元気でしたらまた伺います。
- ・生物のことや地学の分野など、あまり関係なさそうなことを、実は関連していることがあって楽しい。
- ・見たこともない貴重なものを見せていただきました。いい体験でした。
- ・この存在は以前から知っていましたが初めて訪れました。短時間でとても楽しんでもらう事ができました。鹿大から貴重なものが発掘された事にも驚いた。鹿大内に博物館があつて良いと思いました。
- ・展示がきれいで見やすく、考えられていると思った。広くすることはできないのかもしれないけど展示物が増えると楽しい。
- ・多くのサンプル（展示品）があつておもしろかった。鹿児島産の多く身近なもので驚いた。

展示内容のご感想

古代からのおくりもの

- ・初めて目にするものばかりで感動しました。現在住んでいるところの近くに遺跡がたくさんあったのにはおどろきました。説明もしてくれました。有難うございました。
- ・鹿大内の遺跡が興味深かったです。
- ・鹿児島にこんな貴重な遺跡があると知りませんでした。大変勉強になりました。
- ・まだ校内の発掘も続いているようなので、楽しみにしています。
- ・つい最近共通教育棟のあたりを掘り返していたが、あそこで出土したものなんかはどうなのですか？
- ・この郡元から出土したものは、とても不思議なおもいでながめました。足元にこんな古いものが眠っていたなんて。

- ・知らないことばかりでびっくりでした。(工学部、理学部、植物園にかけて川があったことも知りませんでした)
- ・鹿児島は古い歴史があると感じた。(大学も土地自体も)
- ・みやすかったです。大学の歴史がすごいです。
- ・メンコの絵葉書を増やしてほしいと思う。
- ・江戸時代のメンコが、小さくてかわいいと思いました。

機器でたどる鹿大の教育研究史

- ・小さなスペースではあるけれども、様々なものが置いてあり大変興味深かったです。特に1階スペースにある手回し計算機や六分儀等がとても気に入りました。
- ・古い校舎の写真が興味深い。
- ・計算器、タイプライターが面白かった。
- ・昔の学生さんが使っていた器具類も面白かったです。

地球のめぐみ

- ・金や銀など光っているものが、とても印象に残りました。
- ・久しぶりに来館しました。子どもと来ました。子供は館外の金鉱石のかたまりを最初に見てびっくりしているようでした。その後2階の日本の金鉱石の地図には子どもが大変興味を示しているようでした。ありがとうございました。
- ・金の石がおもしろかった。おおむかしの動物の化石をやってください。
- ・金鉱石の石の標本を拡大して見たり、もっと近くで見ることができると、また、面白いのではないのでしょうか(というより、自分が近くで拡大したりして見たいです。)
- ・日本地図の中に産金量が示しており、石が場所ごとにあるのはとても感動した。「八雲の石」びっくりしました。
- ・金鉱床が素敵ですね。
- ・岩石の見分け方について解説がほしい。
- ・地層の展示がよかった。
- ・火山灰の展示を増やしてもらいたい。
- ・金鉱地質が面白かった。

鹿児島の海と生命の歴史

- ・アンモナイトが大きい。絵葉書がうれしいです。また来ます。
- ・また、シアノバクテリアなど他の授業で習った昔の生物の化石を実際に見ることができて、とても感動しました。
- ・女の子で Fe_2O_3 の石を持ち上げられました。
- ・ストロマトライトのところでさわってごらんとあったので、オソロオソさわりました。テレビで知っていたので、見られてさわられてよかったです。
- ・今現在の我々はほんの一部の表層にすぎない所で生活しているのだなあと思いました。
- ・めずらしい魚の化石が見れてよかったです。これからもいろいろなイベントを行なってください。

建物、環境について

- ・建物が気に入りました。
- ・静かで良かった。
- ・ライトや部屋の雰囲気よかった。
- ・すごく管理されていて、すばらしいと思いました。
- ・静かな環境でとてもよかったです。また、足を運びたいと思います。
- ・雰囲気がいい、昔のことが良くわかった。
- ・建物からレトロな感じがし、中に入ってみると、とても感激しました。
- ・とてもいい時間が過ごせました。二階への階段をのぼると正面に見える窓からのながめがすばらしい。実物に触れて良い！に思わずしっかり触れました。質感を肌で感じました。
- ・独特な感じの建物で素敵だと思いました。展示品を観て、新たに発見や感動を得ることができました。

要望

具体的な展示内容

- ・動植物の標本(昆虫など)もあつたらいいと思います。展示するのは大変かも知れませんが、せっかくいいものが鹿児島大学にはあるので。
- ・温室がほしいです。ジャングル、ハイビスカス希望。
- ・もっと生物の標本や昆虫の標本を見たかった。
- ・生き物についてももっと知りたかった。
- ・生物に関するものも展示していただけるようお願いします。
- ・星にかんするものをやってほしい。
- ・県で行なわれている、中高生の自由研究の作品に関連するものがあれば一時展示させてもらったらどうでしょうか？
- ・古い写真があれば展示して欲しい。明治大正のころの郡元キャンパス・桜ヶ丘キャンパスがどのようななっ

ていたか新旧比較したらおもしろい。

展示について

- ・展示の数をもう少し増やしてほしいと思った。　　・よりたくさんの展示物があればよいのと思った。
- ・もっといろんな角度で過去のことがわかる展示をされたら。　　・量をもう少し多くしてもいいかも。
- ・もっと見るだけじゃなくて、体験するのがほしいです。　　・もう少し説明がほしいと思いました。
- ・以前説明する方がいたのに、今日はいなくていろいろ聞けなくて残念。(大学祭)
- ・市民の導線、知的観光の導線にうまくリンクする工夫をしたいですね。　　・展示品を発売してほしい。
- ・展示は良く工夫されているが、ややターゲットが不明確、しかし、運用のやり方しだい。
- ・コストかけすぎ、お客は全然きませんよ。　　・何か工夫してみてもどうでしょうか。
- ・次回は子どもを連れて見学したいと思います。(考古学に興味があるので) 展示品の中でどこが重要なところか、注目してほしい所をもう少しわかりやすくしたら良いと思います。展示品はすごく興味深かったで
- ・植物園の中にベンチがあればゆっくり森林浴ができると思います。もっとゆったりした市民の散策路になると思います。

広報に関するもの

- ・オープンキャンパスや大学説明会で興味をもった生徒に紹介しては。
- ・りっぱな博物館があるのですね。自由に見学できるとは知らなかったです。今回新聞の記事を見て見学にきました。特集がなければこのようにお伺いすることもなかったでしょう。広く市民に広報してください(大学祭も利用して) 多くの方が来られたでしょう。
- ・市民にPRしてほしいです。
- ・展示物が地元から発掘されたものだったりして、鹿児島にこんな歴史的価値のあるものがあるんだと知り驚いた。私は法文学部で授業や各コースでも歴史を学ぶことがあるから、今日、ここで、じかに見たり、触れることで、更に興味や知識を深めることができた。他学生さんにも、もっとアピールしたほうが良いと思います。
- ・もっと世間にアピールしてください。もったいないです。
- ・こんな立派な博物館があることを知らない人が多いのでは、もっとPRされては。もったいない。
- ・鹿大ジャーナルはここ以外ではどこで手に入れることができますか？もう少し、町の中で鹿大をアピールできたらいいのと思います。
- ・あまり知られていないと思うので市政などに載せてみたら訪れる人が多くなると思います。
- ・学生で学内に博物館があると知らない人も多いと思います。どこかでアピールする場があれば良いのではないのでしょうか？
- ・存在が知られていない。観光ビューバス等が停まりPRしてくれたら。　　・もっとアピールしたらいいと思いました。

建物、設備に関するもの

- ・博物館の建物が新しすぎて面白味に欠けます。　　・入りにくかった。　　・靴のはきかえが大変。
- ・スリッパ使用后、処理(抗菌)はされているのでしょうか。簡易の収納式タイプの処理があればいいですね。
- ・スリッパに履き替える所に一言「土足厳禁ですので、スリッパにお履き替え下さい」とあるといいと思います。

小学生からひとこと

- ・広くして、化石もいっぱい入れてほしい。　　・もう少し、化石をやってほしい。
- ・どうやって化石とかほっているのか。アンモナイトは、とてもでっかいやつがあるのか。
- ・アンモナイトがすごい。　　・化石をもっといれてほしい。　　・このはくぶつかんには化石などがある。
- ・またきたい。　　・アンモナイト。　　・いろいろな昔の物が見られてよかった。
- ・化石にさわれたこと。　　・化石が多かった。アンモナイトの化石がかっこよかった。
- ・いっぱい化石があった。　　・むかしのもの。　　・アンモナイトがすごかった。
- ・自然なども見たい。　　・アンモナイトはどこでとったのか。　　・ここにはいろいろあった。
- ・アンモナイトを実物で見ました。大きさにびっくり。　　・おもしろかった。
- ・鹿児島にもいろんな鉱山があったことがわかった。　　・たのしかった。　　・化石などがさわられてよかった。
- ・アンモナイトの化石が大きくてびっくりした。　　・手廻し計算器がとてもおもしろかった。
- ・いろいろなものがあってすごい。　　・昔のものなど、よくかんさつできてよくわかりやすいせつめいだった。
- ・一階は昔のもの(きょうなもの)で、2階は土に関するのと分けてわかりやすかった。

- ・さんようちゅうの化石はありますか？レプリカでもいいです。 ・やすめるところが少ない。
- ・昔の物がいっぱいある。 ・昔のものがてんじされていてすごい。 ・かせきがさわられていい。
- ・いろいろな物があってよかった。 ・これからずっと続けてほしい。 ・とくにない。もうこれでいい。
- ・アンモナイトなど見たことのないものがあつたのでびっくりしました。 ・こんど家族、クラスみんなときたい。
- ・見たこともないものがたくさんあつてすごかった。 ・コンパクトで大変みやすい。
- ・うまれてみたことないかいをみられてすごうれしかったです。そのなまえはエスカルピアとサツマハオリムシあとほかにもいろいろみられてすごうれしい。
- ・もっといっぱいめずらしいのをあつめてみてください。ほかには、すごすぎであとはいえませんが。
- ・たくさんものがてんじされておりおもしろい。 ・とてもよく、いろいろなものがてんじされている。

(5) ボランティア活動

今年度は、大学祭の土曜日、日曜日に入館者が多いことから、理学部の学生ボランティアが誘導・監視にあたった。普段の開館日は特にボランティア活動は行われなかったが、常時ボランティアの受け入れは行なっているため、多くの人に参加していただきたい。

(6) その他

1月下旬より、常設展示室の夜間警備のために配線工事が行われ、2月1日よりセキュリティー警備が始まり、同時に火災報知機も設置された。

(7) 展示資料の追加

新たに小型展示ケースを2台・中型展示ケースを1台追加した。追加内容は下記の通りである。

小型ケース1：はじめ農学部出土の鹿児島高等農林学校で使用された椀・皿・インク瓶等什器類の展示、後に付属図書館地点出土古墳時代土器の展示に変更。

小型ケース2：理学部を中心としてフィジーで行われたオウムガイ調査で蓄積された標本の展示。

中型ケース：高等農林学校資料・公衆衛生資料等、記録文書類展示

(8) 課題

開館して4年目になるが、入館者数は最も多く、たくさんの方々に来場いただき、誠に厚く感謝するばかりである。11月の大学祭の時期は、毎年、常設展示室を見学される常連の方も多く見受けられ、学校の授業で以前来館したことのある小学生たちが、両親とまた見学に足を運んでいただく姿も喜ばしいことである。しかし、毎年入館者の増減は、その年の団体見学者数に左右され、今年度は多くの高校生の来館が入場者数増加の有力な一端を担っているのも事実である。一般の個人の入館者数は千人強で、例年あまり変わらないことは考慮すべきことである。

受付での印象では、一般の個別の来館者は、キャンパスを同じくする大学生の入館が少なく、中高年の男性が多い傾向にある。特に学会などで大学を訪れた他大学関係者が、時間を割いて来館し熱心に見学されている。キャンパス内では、植物園に隣接し、ややわかりづらい場所にはあるが、鹿児島大学の学生が在学中に一度は自分の専門以外でも好奇心を広げ、知性の刺激のために来館して欲しいところである。

アンケートでは、広報が足りないとの意見があつたが、学生の中には、まだまだ常設展示室の存在を知らないようで、常設展示室を見学に来られた一般の方が、学生に博物館展示室はどこかと尋ねても、わからないと答えられ驚いたとよくいわれる。せめて、在学している大学に博物館のあることを認知されることが望まれる。学生に対して如何に常設展示室をアピールし、活用してもらおうか考えていかななくてはなるまい。

最後に、何度も足をはこんでいただく常連の入館者を意識して、11月に短期間であったが「曾於郡大崎町 神領10号墳出土遺物－はにわ現る 須恵器初公開－」の特別展示は、タイムリーな

展示として好評であった。常設展示室での展示内容は、細部においては、開館より展示の増加や入れ替えが行われているが大きな変化はない。展示室の環境条件から温湿度に敏感なものは展示できないなど制約はあるが、「たくさんのものを見たい」という入館者のご要望に答え、新しい展示企画が試行され、さまざまな情報の発信源になれるよう努力していくことが大切であろう。

7 地域貢献事業「鹿児島フィールドミュージアム」

2003年度、2004年度文部科学省「地域貢献特別支援事業」の生涯学習プロジェクトに採択された「鹿児島フィールドミュージアム構築」は、予算が厳しい2005年度以降、10自治体（始良町歴史民俗資料館；伊仙町教育委員会社会教育課；指宿市考古博物館；郡山町（現在は鹿児島市）教育委員会社会教育課；知名町教育委員会生涯学習課；西之表市種子島総合開発センター；南種子町教育委員会社会教育課）；阿久根教育委員会生涯学習課；知覧町ミュージアム知覧；枕崎市文化資料センター南湊館）との連携を続けてきた。

2007年度の取り組みは、前年度に引き続き学長裁量経費を得て専門職員を2ヶ月間雇用し、鹿児島県下に分布する地層のデータベース化を行った。とくに失われつつある地層の模式地をすべてリストアップし、現状も含めて基礎的なデータをまとめた。一方でフィールドミュージアムのノードの紹介を兼ねる著書の執筆、講演を行い、文化財の調査等を行った。また民間の資料館（例えば串木野金山蔵）と連携し、展示に関するアドバイスをを行うとともに、ひとつのノードとして施設を活用し、イベントや勉強会を行った。

8 教育活動

(1) 共通教育「博物館へのいざない」

2004年度から総合研究博物館専任教員で共通教育を担当している。この講義は大学博物館の存在を紹介するとともに、その役割や意義について説明することを目的としている。また、広く博物館学の入門的な内容も備えており、学芸員の資格や仕事について知る機会ともなるよう企図している。

講義は前期15回で、教員4人で分担して進めている。また授業は公開授業としており、学生以外の受講者も手続きを行えば受講できるようになっている。

【講義の目的】

- ・博物館、とくに大学博物館への関心と理解を深める。
- ・博物館の意義と役割について理解する。
- ・学習や研究における博物館の活用について理解を深める。

【大木公彦 1～3回】

- 1) 序 博物館へのいざない
- 2) 日本の博物館・外国の博物館・大学博物館
- 3) 地球の過去・現在・未来を知る：標本的重要性

【落合雪野 4～7回】

- 4) 有用植物学ことはじめ—毎日の暮らしから考えよう
- 5) ものと情報の収集(1)現地調査
- 6) ものと情報の収集(2)植物園と標本庫
- 7) 鹿児島の食文化と植物

【本村浩之 8～11回】

- 8) 動物の進化と分類—理論と標本の重要性
- 9) 魚類分類学と世界の博物館
- 10) 魚類分類学とフィールド調査
- 11) 鹿児島県の魚

【橋本達也 12～15回】

- 12) 博物館学的に博物館を考える
- 13) 文化財保護と博物館
- 14) 考古学の考え方—モノから歴史を考える—
- 15) 考古学と博物館—発掘調査・整理作業・資料活用—

(2) 共通教育「学芸員の業務と役割—文化のプロデューサー—」

2006年度から始めた共通教育教養科目「学芸員の業務と役割 - 文化のプロデューサー」を2007年度も開講した。講師は、昨年度とは1名が変更になり、県下の博物館施設（かごしま水族館；始良町歴史民俗資料館；輝北天球館；尚古集成館；薩摩伝承館；鹿児島市立美術館）で活躍する6名の学外非常勤をお願いし、博物館施設に勤務する学芸員にしかわからない業務、その役割について講義していただいた。本年度は26名の受講者があった。

【講義の目的】 教育研究に使用された資料や標本の重要性和、それらをどのように管理し、さらに進んだ活用のあり方があるのか理解することをこの授業の目的とする。この授業を通じて文化財の保護や環境保全について、具体的にどのような行動が必要かを考える。

- 1) 大木公彦（鹿児島大学総合研究博物館長）：博物館等施設とそこで働く学芸員の役割
- 2・3) 荻野洸太郎（かごしま水族館 館長）：教育施設としての水族館、水族館と社会貢献
- 4・5) 下鶴 弘（始良町歴史民俗資料館 文化係長）：地方における歴史資料館の役割や市町村における文化財保護行政の現状
- 6・7) 西井上剛資（輝北天球館 館長）：生涯教育施設としての公開天文台、身近な星空
- 8・9) 松尾千歳（尚古集成館 文化財課長）：リニューアルオープンした尚古集成館の展示—その準備からオープンに至るまでの過程と文化をプロデュースする意味
- 10・11) 深港恭子（薩摩伝承館 学芸員）：薩摩伝承館のオープンに向けた準備作業と開設の意図
- 12・13) 山西健夫（鹿児島市立美術館 学芸係長）：美術の意味を伝える学芸員の活動、絵画の保存と展示
- 14・15) 大木 公彦：大学総合博物館の業務と役割

(3) 博物館実習

鹿児島大学では法文学部、教育学部、理学部において、博物館学芸員資格取得に関する博物館館務実習に関する単位を取得できる。総合研究博物館では、受け入れ館の都合により単位取得に必要な規定日に達しない実習生の日数を補うことを目的として、夏季休業中に実習を行っている。

2007年度は魚類分類学・地質学・考古学に関する実習を各6時間ずつ行った。

魚類分類学 8月8日(水)の午前・午後ともに本村が担当し、法文学部3名の実習生に、総合研究博物館魚類標本作製マニュアル（ニュースレター No.16に掲載）に従って、標本の作成を行った。標本の作成、撮影、同定。登録、固定の一連の作業を実際に体験し、実習生は博物館における標本資料における標本資料管理の重要さと大変さを実感したようであった。

地質学 8月9日(木)の午前・午後ともに大木が担当し、総合研究博物館の会議室を使い、法文学部3名の実習生に、三葉虫を中心とした化石標本の整理、登録の実習を指導した。

考古学 8月10日(金)午前には橋本が担当し、午後は兼務教員の法文学部 渡辺芳郎 教授が担当した。

橋本は考古資料の整理の基本として、注記の意義を理解させながら実習を行った。資料は博物館で保有する諏訪考古資料を用いた。渡辺氏は資料の記録方法とその意義について説明し、拓本の実習を行った。

(4) インターンシップ

鹿児島県教育委員会より依頼のあったインターンシップの受入を行った。これは、産業界と教育界が連携して中・高校生のためのインターンシップを全県的に実施し、勤労観・職業観の育成や、学習意欲の向上を含めたキャリア教育の推進を図ることを目的とした「未来を拓くキャリア教育推進事業」の一環である。8月16日(木)～18(土)までの3日間、鹿児島玉龍高等学校の生徒2名を受入れた。

初日は大木が担当し、三葉虫を中心とした化石標本の整理、登録の実習を指導した。

2日目は本村が担当し、博物館における標本の保存と管理をテーマに、地元で採集された魚類の標本作製、撮影、登録作業を行った。

3日目は落合が担当し、霧島アートの森にて施設の見学をおこなった。とくに来場者を迎えるための設備について重点的に観察し、その意図や工夫を記録した。この日は工事による本館断水のため、やむを得ず学外での研修をおこなった。今後このようなことを起こさないためには、インターンシップの受け入れ日程を決定する際の十分な配慮が必要である。

福元と博物館ボランティアはインターンシップの実習補助を行った。3日間のみの実習であったが、参加者は博物館の日常的な業務を体験できたと思う。

9 出版・広報

2007年度の主な出版物は、ニューズレター No.17・18・19、研究報告No. 3であった。

ニューズレター ニューズレター No.17では、第7回特別展の展示解説を兼ねた配付資料として作成した。展示に協力していただいた各研究者に執筆いただき全16ページ、17編の記事を掲載している。

ニューズレター No.18では、平成18年度に大阪府立近つ飛鳥博物館が当館所蔵のミサキウマ骨格標本を用いて作成した古墳時代の馬骨格標本のレプリカ作成過程とその意義についてを、その担当者であった同館の前総括学芸員、現大阪府教育委員会の小浜成氏に執筆いただいた。

また、これまで総合研究博物館の業務に常づね支援いただいている鹿児島大学大学院理工学研究科研究生の内村公大氏に最近明らかになった鹿児島県北部の地質調査のトピックを紹介いただいた。全12ページ。

ニューズレター No.19では、総合研究博物館・橋本が8～10月に実施した曾於郡大崎町 神領10号墳での発掘調査の成果の速報を掲載した。また、関連する話題として最近、大崎町で見つかった写真から、大隅の巨大前方後円墳である横瀬古墳は現状で残存する墳丘よりも本来はさらに大きく、また周囲には周溝・周堤帯がともなっていたことが判明したことの紹介。さらに、肝付町教育委員会と総合研究博物館の共催で実施した肝付町歴史民俗資料館特別展に関わる話題を紹介した。全10ページ。

研究報告 研究報告No. 3として『大隅串良 岡崎古墳群の研究』を発行した。本研究は総合研究博物館 橋本が2002年8月～2004年3月にかけて科研費の他、博物館公費・学長裁量経費などを用いて発掘調査した岡崎18号墳・20号墳の調査成果を中心としてまとめたものである。研究論文9編を含む全372ページである。

ポスター・チラシ 第7回特別展にあわせて、展示案内用のB2判ポスター・A4判チラシを作成し、学内各所および他の博物館、教育委員会などに送付し、掲示・配布を依頼した。

絵はがき 特別展では展示に関連する写真を用いた絵はがきを10種類作成し、来館者に好きなものを1枚ずつプレゼントした。

展示協力 共済事業、肝付町立歴史民俗資料館特別展でのポスター案・配付資料の作成を協力した。

10 ボランティア活動

2006年に引き続き、博物館業務のうち人員を要する各種作業を円滑に進める目的でボランティアの募集をおこなった。前年度より活動を継続していただいた方も含めて総勢29名が参加した。

(1) 常設展示室に関わる業務の補助

団体の見学者がある際、展示室の案内補助および監視の補助を行った。大学祭期間中の11月10日および11月11日に展示室の案内補助および監視の補助を行った。

(2) 第7回特別展に関わる業務の補助

特別展展示品の準備や作製の補助に加え、会期中（10月15日～11月15日）の案内係補助および監視補助として、2名ずつ1日5交代で担当した。特別展ボランティア学習会については、特別展の解説ページを参照。

(3) 考古学資料の整理

ボランティア5名により、神領10号墳から出土した土器の洗浄・マーキング・接合等の作業を行った。

(4) 魚類標本の作製・登録・データベース化

総合研究博物館では2006年度から魚類標本の受け入れおよび標本の作製を積極的に行っている。ボランティアは本学学生、一般市民、漁業従事者、水族館職員など多彩な構成である。ボランティアの活動は、大きく分けると魚類の採集、学習会、標本の作製と保存である。（ニューズレターNo. 16を参照）。本年度は約5000標本の登録を行い、その標本データのデータベース作成と、約10000件の画像データベースを作成した。平均すると本年度は1日13件以上のデータを入力、標本を登録したことになる。

本年度のボランティア学習会は、オーストラリア博物館のMark McGrouther氏を招聘し、「Ichthyology at the Australian Museum: Collections, Databases and the Web」と題して、オーストラリア博物館の魚類標本、およびそのデータベース化とウェブ公開について話していただいた。



魚類ボランティア

(5) その他

ボランティア間の交流をはかり、かつ博物館企画行事へ向けての研鑽の場として、ボランティア学習会を5回行った。鹿児島大学学生部学生生活課主催の学内ボランティア交流会に参加し、活動内容の発表を行っている。

11 標本管理活動

(1) 植物標本室

2007年度に植物標本室とその収蔵標本に関して行ったおもな活動を報告する。

前年に引き続き、植物標本室の公開事業をおこなった。標本の閲覧に関しては、学内、国内（九州大学）、国外（中国）からの利用者があった。また、利用の方法や研究データの公開、標本寄贈などについての問い合わせがあり、これに対応した。

また、岩井雄次 技術補佐員が担当して、ラベルデータのデータベース入力作業をおこなった。その結果、2007年4月から2008年3月までのあいだに、4,600件を入力することができた。これにより、入力済みデータの総数は、25,820件となった。また、鹿児島大学情報基盤センターの森邦彦教授の支援のもと、データ情報を本館ウェブサイト上で公開するサービスを継続した。

入力作業の実施にあたっては、科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）課題番号17808「日本タイプ標本データベース」の支援をうけた。首都大学東京、東京大学、琉球大学などのハーバリウムと共同して日本の島嶼部の植物相を網羅する「GBIF海洋島植物標本データベース」の作成をめざすことを決定し、その作業に着手した。2007年9月、標本映像を撮影入力する装置をこの資金により発注した。ついで、11月18日に加藤英寿 首都大学東京 助教が植物標本室を訪れ、標本撮影台のセッティング作業と撮影、データ入力の実演を行った。これにより画像データ入力の態勢が整い、実際の入力を開始することができた。また、その際には鹿児島県立博物館の植物担当の学芸員2名が参加し、研究交流の機会として活用した。

(2) 脊椎動物標本の利用状況

2007年度の総合研究博物館所蔵脊椎動物標本・資料の利用状況を報告する（学内での利用数は膨大であるため除く）。

貸出・利用年月	分類群	標本・資料	点数	貸出・利用先	目 的
2007年5月	魚類	液浸標本	2	高知大学	研究
2007年5月	魚類	液浸標本	3	三重大学	研究
2007年5月	魚類	液浸標本	15	東北区水産研究所	研究
2007年5月	魚類	液浸標本	5	Museum of New Zealand Te Papa, New Zealand	研究
2007年8月	魚類	標本画像	1	南日本新聞	新聞掲載
2007年9月	魚類	標本画像	2	南日本新聞	新聞掲載
2007年10月	魚類	液浸標本	23	高知大学	研究
2007年10月	魚類	標本画像	1	朝日新聞	新聞掲載
2007年10月	魚類	標本画像	1	南日本新聞	新聞掲載
2007年11月	魚類	液浸標本	19	高知大学	研究
2007年11月	魚類	液浸標本	6	国立科学博物館	研究
2007年11月	魚類	液浸標本	4	California Academy of Sciences, USA	研究
2007年11月	魚類	標本画像	1	California Academy of Sciences, USA	研究
2007年12月	魚類	標本画像	30	株式会社学習研究社	ジュニア学研の図鑑「魚」掲載（2008年2月出版）
2007年12月	魚類	標本画像	1	南日本新聞	新聞掲載
2008年1月	魚類	筋肉組織	5	国立科学博物館	研究
2008年1月	魚類	標本画像	1	南日本新聞	新聞掲載
2008年2月	魚類	液浸標本	8	Museum of New Zealand Te Papa, New Zealand	研究

2008年 2 月	魚類	標本画像	1	Museum of New Zealand Te Papa, New Zealand	研究
2008年 2 月	魚類	標本画像	22	かごしま市民環境会議・平川動物公園	五位野川の生き物たちマップ掲載 (2008年2月発行)
2008年 3 月	魚類	液浸標本	34	高知大学	研究
2008年 3 月	魚類	標本画像	1	Victoria Museum, Australia	研究
2008年 3 月	魚類	液浸標本	282	Australian Museum, Australia	研究
2008年 3 月	魚類	標本画像	3	Australian Museum, Australia	研究
2008年 3 月	魚類	標本画像	1	南日本新聞	新聞掲載

総合研究博物館所蔵脊椎動物標本に基づく調査・研究成果で、2007年度の出版物を以下に列挙する。

- Motomura, H., P. R. Last and G. K. Yearsley. 2007 (May). Two new species of the scorpionfish genus *Trachyscorpia* (Sebastidae: Sebastobinae) from the southern Indo-West Pacific, with comments on the distribution of *T. eschmeyer*. *Zootaxa*, 1466: 19-34.
- Ida, H., M. Okamoto and J. Sakaue. 2007 (May). *Epigonus cavaticus* (Teleostei: Perciformes), a new epigonid fish from Palau, western Central Pacific. *Ichthyological Research*, 54 (2): 131-136.
- Iwatsuki, Y., S. Kimura and T. Yoshino. 2007 (May). A review of the *Gerres subfasciatus* complex from the Indo-West Pacific, with three new species (Perciformes: Gerreidae). *Ichthyological Research*, 54 (2): 168-185.
- Motomura, H., M. Ito, M. Takayama, Y. Haraguchi and M. Matsunuma. 2007 (Aug.). Second Japanese record of a threadfin, *Eleutheronema rhadinum* (Perciformes: Polynemidae), with distributional implications. *Biogeography*, 9: 7-11.
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2007 (Aug.). *In situ* ontogenetic color changes of *Pentapodus aureofasciatus* (Perciformes: Nemipteridae) off Yakushima Island, southern Japan and comments on the biology of the species. *Biogeography*, 9: 23-30.
- Motomura, H., M. Ito, H. Ikeda, H. Endo, M. Matsunuma and K. Hatooka. 2007 (Aug.). Review of Japanese records of a grouper, *Epinephelus amblycephalus* (Perciformes: Serranidae), with new specimens from Kagoshima and Wakayama. *Biogeography*, 9: 49-56.
- 本村浩之. 2007 (Sept.). 2007年5月に採集された鹿児島湾初記録の魚. 鹿児島大学総合研究博物館ニューズレター, (17): 1.
- Motomura, H., S. Kimura and Y. Haraguchi. 2007 (Dec.). Two carangid fishes (Actinopterygii: Perciformes), *Caranx heberi* and *Ulua mentalis*, from Kagoshima: the first records from Japan and northernmost records for the species. *Species Diversity*, 12 (4): 223-235.
- 伊東正英・高山真由美・原口百合子・松沼瑞樹・本村浩之. 2007 (Dec.). 鹿児島県から多獲されたアジ科魚類の稀種マテアジ. *南紀生物*, 49 (2): 117-118.
- 松沼瑞樹・米沢俊彦・四宮明彦・鈴木廣志・大木公彦・本村浩之. 2007 (Dec.). 絶滅危惧種スナヤツメ南方型の鹿児島県からの70年ぶりの記録. *日本生物地理学会会報*, 62: 23-28.
- Manabe, H., M. Matsuoka, K. Goto, S. Dewa, A. Shinomiya, M. Sakurai and T. Sunobe. 2008. Bi-directional sex change in the gobiid fish *Trimma* sp.: does size-advantage exist? *Behaviour*, 145: 99-113.
- Kimura, S., R. Kimura and K. Ikejima. 2008 (Feb.). Revision of the genus *Nuchequula* with descriptions of three new species (Perciformes: Leiognathidae). *Ichthyological Research*, 55 (1): 22-42.

沖山宗雄(監修). 2008 (Feb.). ジュニア学研の図鑑 魚. 株式会社学習研究社, 東京. 142 pp.
 鹿児島市・かごしま市民環境会議(編)・本村浩之(監修). 2008 (Feb.). 平川動物公園 五位
 野川の生き物たちマップ. A3, 4 ッ折.
 財団法人鹿児島市水族館公社(編著)・本村浩之(監修). 2008 (Mar.). ～かごしま水族館が確
 認した～鹿児島の定置網の魚たち. 財団法人鹿児島市水族館公社, 鹿児島市. 260 pp.
 Yokokawa, K., H. Endo and H. Sakaji. 2008 (Mar.). *Cynoglossus ochiaii*, a new tongue sole from
 Japan (Pleuronectiformes: Cynoglossidae). Bulletin of the National Museum of Nature
 and Science, Series A (Zoology) Supplement 2: 115-127.

(3) 標本資料の寄贈

地質学標本 宮崎県東諸県郡国富町に分布する宮崎層群から産出した「フナクイムシ」の化石
 と、理学部地球環境科学科に所蔵されていた25点の火山岩が総合研究博物館に寄贈された。

また、標本の貸出は、鹿児島県立博物館が開催した企画展「光り輝く岩石・鉱物」のために、
 アンモナイト化石、黄鉄鉱標本など46点を貸し出した。

水産学部甲殻類標本 水産学部教授 鈴木廣志氏より、奄美大島で採集された節足動物のカニ
 合計3点、鹿児島大学大学院理工学研究科地球環境科学専攻 博士課程の小長井利彦氏より、新
 種アクセキジマヤマトニシ8点と新亜種 タカラジマヤマトニ4点が記載論文「新種 アクセキジ
 マヤマトニシ *Cyclophorus akusekijimana* sp. nov. と新亜種 タカラジマヤマトニシ *Cyclophorus*
kikaiensis takarajima ssp. nov. の記載」とともに総合研究博物館へ寄贈された。ただちに標本に
 対して博物館登録番号を付し、登録、保管することとなった。

農学部家畜解剖学資料 農学部獣医学科建物の改修工事に伴い、家畜解剖学教室より研究に使
 用した機器類、鹿児島高等農林学校以来の研究室什器等の寄贈を受けた。また、とくにシカ・ヤ
 ギを中心とする動物骨格標本の保管管理を委託された。

教育・研究史関係資料 卒業生より、第七高等学校卒業アルバムほか教育・研究史資料を寄贈
 いただいた。

(4) その他の標本資料の活用状況

2007年度の総合研究博物館の考古、地学、教育、研究史等資料・標本の利用状況を報告する。

利用年月	標本・資料	数	貸出・利用先	目 的
2007年5月	宮ノ浦神社写真	25点	九州産業大学	研究
2007年5月	常設展示室外観写真	2点	日外アソシエーツ 株式会社	「大学博物館事典」掲載
2007年7月	教育・研究史資料	3点	鹿児島大学附属図 書館	蔵書展「北辰斜めにさすところ －第七高等学校造土館－」展示
2007年5月	考古資料(岡崎古墳群 出土遺物)	一式	鹿児島県肝付町	肝付町歴史民俗資料館特別展における 展示
2007年8月	考古資料(神領10号 墳出土埴輪)画像	1点	大隅史談会	会誌「大隅」51号
2007年11月	考古資料岡崎18号墳 資料写真	5点	社団法人 鹿屋青 年会議所	「古代大隅歴史」ポスターに掲載
2007年11月	考古資料(神領10号 墳出土埴輪)写真	1点	鹿児島県大崎町	大崎町広報誌
2008年1月	鉱物資料	45点	鹿児島県立博物館	企画展「光輝く岩石・鉱物」における 展示

12 2006年度 専任教員の活動業績

大木公彦 [教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育への貢献

共通教育科目「博物館へのいざない」一部担当

共通教育科目「学芸員の業務と役割－文化のプロデューサ」担当

2) 専門教育への貢献

理学部学芸員関係科目「博物館資料論」

理学部地球環境科学科専門科目「地球環境科学2」一部担当

理学部地球環境科学科専門科目「海洋地質学」

大学院理工学研究科博士前期課程「環境地質学特論」

大学院理工学研究科博士後期課程「微古生物学特論」

3) その他

インターンシップ博物館実習

(2) 研究活動

1) 研究論文（査読付）

内村公大・大木公彦・古澤 明、2007：鹿児島県八重山地域の地質と鮮新統郡山層の層位学的研究. 地質学雑誌、v. 3、95－12.

松沼瑞樹・米沢俊彦・四宮明彦・鈴木廣志・大木公彦・本村浩之、2007：絶滅危惧種スナヤツメ南方型の鹿児島県からの70年ぶりの記録. 日本生物地理学会会報、62、23－28.

2) 研究論文（査読なし）

大木公彦、2007：米ノ津川流域の地形・地質と2006年7月22日・23日の米ノ津川流域の浸水について. 平成18年度教育改善推進費（学長裁量経費）研究成果報告書「2006年鹿児島県北部豪雨災害に関する総合的調査研究」、43－51.

3) 学会講演要旨集

大木公彦・図師聖士・富安卓滋、2007：水俣湾・南部八代海に排出された水銀の現状と底生有孔虫の動向に関する予察的研究. MRC研究発表会講演要旨、38－39.

4) 学会特別講演

大木公彦、2007. 5. 23: 第5回木質炭化学会研究発表会特別講演「南九州の自然と火山」. 黎明館

(3) 社会貢献

1) 学会・公的機関などの役職・委員会委員等

日本地質学会西日本支部幹事

鹿児島県文化財保護審議会委員

鹿児島県立博物館協議会委員

鹿児島県環境影響評価専門委員

財団法人鹿児島県環境整備公社評議員

2) 公的機関における研究指導・授業・共同研究等

放送大学客員教授

熊本大学非常勤講師

熊本県立大学非常勤講師

3) 執筆等

2007. 4 : セブ島の隆起石灰岩. 随筆かごしま、No. 161, 1.
2007. 6 : 熱水が造り出した入来粘土. 随筆かごしま、No. 162, 1.
2007. 8 : ラムサル条約保護下にある火口湖. 随筆かごしま、No. 163, 1.
2007. 10 : ヴィッラ・アドリアーナの地震対策. 随筆かごしま、No. 164, 1.
2008. 1 : ニューヨーク・マンハッタンの地盤. 随筆かごしま、No. 165, 1.
2008. 2 : 生きた化石オウムガイ. 随筆かごしま、No. 166, 1.
2008. 3 : 篤姫と鹿児島 naturally. 平成19年度文化庁芸術拠点形成事業「篤姫子ども塾ガイドブック」、尚古集成館、18-21.

4) 公開講座等講師

2007. 4. 20 スーパーサイエンスハイスクール事業 錦江湾洋上体験学習「錦江湾のなりたち」、鹿児島県立錦江湾高等学校、錦江湾洋上の貸し切り船上
2007. 6. 5 鹿児島大学シニア短期留学講義「鹿児島の地質と温泉」、鹿児島大学総合教育研究棟5F
2007. 9. 9 放送大学学生研修旅行「塚崎古墳群と志布志の寺院巡り」、放送大学鹿児島学習センター主催、肝付町・大崎町・志布志町
2007. 9. 25 スーパーサイエンスハイスクール事業サイエンスアドベンチャー、「霧島火山の成り立ち」、学校法人池田学園池田高等学校、霧島市高千穂河原～新燃岳
2007. 10. 14 まち歩き1日塾「桜島のマグマを感じる散策コース」、鹿児島市観光プログラム作成実行委員会主催、鹿児島市役所
2007. 11. 2 平成19年度高等学校生徒理科研究発表大会指導助言：地学・生物学部門、鹿児島県高等学校教育研究会理科部会主催、鹿児島市立科学館
2007. 12. 10 スーパーサイエンスハイスクール事業講義先端科学「海の調査に魅せられて」、学校法人池田学園池田高等学校
2007. 1. 20 国2007年度全国都市再生モデル調査事業「国指定カムイヤキの窯跡と伊仙の自然を再発見する調査事業」、伊仙町主催、伊仙町

5) 一般講演等講師

2007. 6. 18 体験ツアー「桜島の自然と防災」、NPOまちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会主催、桜島～鹿屋市
2007. 7. 28 みんなの産業遺産第2回講座：集成館事業と疎水溝「集成館を作ってみよう」、NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会主催、かごしま県民交流センター
2007. 8. 26 まち歩きガイド養成講座「鹿児島の自然について」、鹿児島市観光プログラム作成実行委員会／NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会主催、鹿児島大学法文学部202号室
2007. 10. 27 第16回IODP大学&科学館キャンペーン講演会「海洋地質研究の醍醐味」、独立行政法人海洋研究開発機構・日本地球掘削科学コンソーシアム主催、鹿児島大学・鹿児島県立博物館共催、文部科学省後援、鹿児島大学教育研究棟
2007. 11. 4 第17回薩摩金山私学校講座「博物館巡り」、薩摩金山私学校、鹿児島大学総合研究博物館・鹿児島県立博物館
2007. 2. 3 かごしま温泉シンポジウム基調講演・シンポジスト「地球の恵としての温泉をみつめる」、NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会主催、ホテル吹上荘

(5) 雑誌・報道関係

2007. 1. 9 「教育力向上へ新機軸」（講義の内容とコメント）、南日本新聞

2007. 7. 4 「薩摩を知った楽しんだ」(講義の内容とコメント). フロンティアエイジ
 2007. 8. 6 「展示41年恐竜標本2体 実は貴重です」(取材コメント). 南日本新聞
 2008. 1. 23 「初島住彦氏が死去」(コメント). 南日本新聞
 2008. 1. 23 「足元の宝に感動」(現地指導の内容とコメント). 奄美新聞
 2008. 1. 24 「伊仙の自然再発見」(現地指導の内容とコメント). 南日本新聞
 2008. 2. 4 「温泉をもっと生かそう」(温泉シンポジウムの内容). 南日本新聞
 2008. 2. 6 「身近な泉源大事に」(温泉シンポジウムの内容). 朝日新聞
 2008. 3. 31 「お宝発見 金鉱石コレクション」(博物館の金鉱石展示を紹介). 朝日新聞全国

落合雪野 [准教授]

(1) 教育活動

- 1) 共通科目
共通教育科目「博物館へのいざない」担当
- 2) 専門教育
農学部科目「民族植物学」担当
農学研究科科目「民族植物学特論」担当
- 3) その他
インターンシップでの指導
博物館実習での指導

(2) 研究活動

- 1) 研究論文(査読あり)
2007 落合雪野「ミャンマー周縁部における種子ビーズ利用の文化—その継承と創出をめぐって—」『東南アジア研究』45(3):382-403.
- 2) 研究論文(査読なし)
2007 Ochiai Yukino “Shifting agriculture and millet cultivation in southern Chin State, Myanmar”. K. G. Saxena, L. Liang and K. Rekasem eds. Shifting Agriculture in Asia: Implications for Environmental Conservation and Sustainable Livelihood. Bishen Singh Mahendra Pal Singh. 247-258.
 2007 落合雪野「有用植物と生活文化—ジュズダマ属植物の利用とその変容」『科学研究費補助金基盤研究(B)(2)「ミャンマー少数民族地域における生態利用と世帯戦略：広域比較に向けて」研究成果報告書』65-110.
 2007 落合雪野「山地民は何を食べてきたか—耕地から得られる食材を中心に」『自然と文化そしてことば』3:42-49.
 2007 落合雪野「種子を飾る人びと—植物利用からみたタイ文化圏」『自然と文化そしてことば』3:106-114.
 2007 落合雪野「飾る植物—東南アジア大陸部山地における種子ビーズ利用の文化」松井健編『資源人類学 第6巻 自然の資源化』弘文堂, 123-159.
 2007 落合雪野「生きもの博物誌ジュズダマ—観光資源としての植物」『月間みんぱく』352:21-21.
 2007 落合雪野「トラベリング・ミュージアム—研究成果を共有するためのこころみ」『地域研究コンソーシアム・ニュースレター』2:13-15.
 2008 落合雪野・横山智「焼畑とともに暮らす」『ラオス農山村地域研究』めこん, 311-347.
 2008 横山智・落合雪野「開発援助と中国経済のはざま」『ラオス農山村地域研究』めこん,

361-394.

- 2008 河野泰之・落合雪野・横山智「ラオスをとらえる視点」『ラオス農山村地域研究』めこん, 13-44.
- 2008 落合雪野「ハトムギの酒」山本紀夫編『増補酒造りの民族誌—世界の秘酒、珍酒』八坂書房, 240-250.
- 2008 落合雪野「クイーンシリキット植物園における研究と教育の活動」『日本熱帯生態学会ニューズレター』71:5-9.
- 2008 落合雪野・小坂康之・齋藤暖生・野中健一・村山伸子「五感の食生活—生き物から食べ物へ」論文集『モンスーン・アジアの生態史—地域と地球をつなぐ 第1巻 生業の生態史』弘文堂, 203-224.
- 2008 横山智・落合雪野・櫻井克年・広田勲「焼畑の生態価値」論文集『モンスーン・アジアの生態史—地域と地球をつなぐ 第1巻 生業の生態史』弘文堂, 85-100.

3) 学会発表

- 2007 落合雪野・佐藤優香「ラオスにおけるトラベリング・ミュージアムの実践」2007年6月8日第2回博物科学会（九州大学、福岡市）
- 2007 落合雪野「ミャンマー周縁部山地における*Ensete glaucum*の利用」2007年6月16日第17回日本熱帯生態学会年次大会（高知大学、高知市）
- 2007 落合雪野・佐藤優香・上まりこ・久保田徹「トラベリング・ミュージアム—研究成果を共有するためのこころみ」2007年7月21日京都大学地域研究情報統合センター共同研究会「地域研究における記述」（京都大学、京都市）
- 2007 Yukino OCHIAI and Satoshi Yokoyama “Plant uses mapping in villages of northern Laos: An ecological approach to allocation and process” 2007年8月11日International workshop on sustainable land management network in the mountainous region of mainland Southeast Asia.（シンユアンホテル、雲南省新平県）
- 2007 Yukino OCHIAI “Community challenge to conservation and commercialization: A case study of Aobana (*Commelina communis* var. *hortensis*) in Kusatsu City, Japan” 2007年8月12日International forum on protecting intellectual property rights of traditional knowledge and sustainable development.（昆明植物研究所、昆明市）
- 2007 Yukino OCHIAI and Satoshi YOKOYAMA “The use of plants in everyday life: The cultural landscape and complex subsistence activities practiced in a hill villages of northern Laos” 2007年11月30日International Workshop on Sustainable Natural Resources Management of Mountainous Regions in Laos（ルアンナムター県会議場、ルアンナムター）

(3) 外部資金

競争的外部資金（分担者）

科学研究費補助金 基盤研究B 18380132「文化としての農業と地域社会における生物資源の存続に関する比較研究」代表者、末原達郎教授（京都大学大学院農学研究科）

競争的外部資金（代表者）

トヨタ財団平成18年度研究助成「助成金が活きたとは」（D06-J-025）「もの資料をメディアに『経験』と『思い』をわかちあう手法の開発—トラベリング・ミュージアムによる実践」

(4) 社会貢献

1) 学会・公的機関などの役職、委員会委員等

鹿児島県文化財保護審議委員会委員

日本熱帯生態学会広報幹事

2) 公的機関における研究指導・授業・共同研究等

国立民族学博物館共同研究員

京都大学東南アジア研究所学外研究協力者

東京大学東洋文化研究所共同研究員

(5) 調査研究

2007年3月26日－4月7日 ラオス、ルアンパバーン市、ヴィエンチャン市

ラオスの2都市におけるトラベリング・ミュージアムの実践

トヨタ財団平成18年度研究助成「助成金が活きたとは」(D06-J-025)「もの資料をメディアに『経験』と『思い』をわかちあう手法の開発ートラベリング・ミュージアムによる実践」

2007年7月27－30日 滋賀県草津市

近江の特産植物を活用した地域活性化活動に関する現地調査

科学研究費補助金 基盤研究B 18380132「文化としての農業と地域社会における生物資源の存続に関する比較研究」

2007年12月27日－1月6日

ラオス、ルアンナムター県における植物利用に関する現地調査

京都大学東南アジア研究所山田勇名誉教授プロジェクト「稀少生態資源の錯乱動態と伝達技術保全へのエコポリティクス」研究費

2007年1月16－22日

台湾、台東大学および国立史前文化博物館における展覧開会再準備

トヨタ財団平成18年度研究助成「助成金が活きたとは」(D06-J-025)「もの資料をメディアに『経験』と『思い』をわかちあう手法の開発ートラベリング・ミュージアムによる実践」

2007年2月1日－3月2日

タイ、クイーンシリキット植物園における研修

平成19年度学芸員等在外派遣研修「東南アジアの中核ハーバリウムにおける植物標本の収集、保管、公開の実践ーものと情報の保全と活用をめざして」

橋本達也 [准教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育への貢献

共通教育科目「博物館へのいざない」担当

共通教育科目「鹿児島探訪－考古－」担当

2) 専門教育への貢献

教育学部「考古学概論」担当

教育学部「博物館概論」担当

3) その他

博物館実習

(2) 研究活動

1) 著書

橋本達也 2008『大隅串良岡崎古墳群の研究』鹿児島大学総合研究博物館研究報告No. 3
鹿児島大学総合研究博物館、352pp

2) 研究論文（査読なし）

橋本達也 2007「九州の中期甲冑」『九州島における中期古墳の再検討』九州前方後円墳研究会 pp.47-58

3) その他

橋本達也 2007「神領10号墳発掘調査－大隅のフィールド調査－」『鹿児島大学総合研究博物館News Letter』No.15 鹿児島大学総合研究博物館 pp.1-10

橋本達也 2007『古墳に眠る肝属の王－塚崎古墳群の時代－』肝付町歴史民俗資料館特別展資料 肝付町教育委員会・鹿児島大学総合研究博物館 pp.1-4

4) 学会発表

橋本達也 2007.06.09「九州の中期甲冑」第10回九州前方後円墳研究会『九州島における中期古墳の再検討』（宮崎県立西都原考古博物館・宮崎）

(3) 外部資金

競争的外部資金（代表者）

科学研究費補助金 若手研究A「前方後円墳築造周縁域における境界領域の構造に関する研究」平成18～20年

競争的外部資金（分担者）

科学研究費補助金 基盤研究B「弥生・古墳時代における太平洋ルートの文物交流と地域間関係の研究」平成18～21年 代表者・清家章（高知大学助教授）

国立歴史民俗博物館個別共同研究「マロ塚古墳を中心とした古墳時代中期武器武具の研究」平成16～19年 代表者・杉井健（熊本大学助教授）

(4) 社会貢献

1) 学会・公的機関などの役職・委員会委員等

肝付町塚崎古墳群調査指導委員会委員

2) 公的機関における研究指導・授業・共同研究等

国立歴史民俗博物館共同研究員

3) 公開講座等講師

2007.4.17 (社)鹿屋青年会議所～呼び覚ませ大隅隼人の誇り～古代大隅歴史講演会「大隅の古墳発掘－隼人前史の新しい研究へ－」リナシティかのや 市民交流センター

2007.12.1 大崎町教育委員会生涯学習文化講演会「大隅の古墳から古代史を考える～大崎町神領10号墳の発掘調査をとおして～」大崎町中央公民館

4) 調査指導・協力

肝属郡肝付町塚崎古墳群発掘調査の指導

(5) 調査研究

神領10号墳発掘調査（曾於郡大崎町）8月17日～10月5日 科研費若手研究A「前方後円墳築造周縁域における境界領域の構造に関する研究」

大韓民国 西南～東南部地域の三国時代古墳および古墳時代資料の調査 7月30日～8月6日 科研費若手研究A「前方後円墳築造周縁域における境界領域の構造に関する研究」

(6) 報道関係

寄稿：2007.08.15 南日本新聞：かごしま文化を語る 大隅最古段階の資料 肝付町歴史民俗資料館「古墳に眠る肝属の王」展

記事：2007.07.10 南日本新聞：大隅の古墳出土品一堂に 須恵器復元し初公開 大崎の

武人埴輪も展示

2007.07.19 南日本新聞：地元出土品に注目 塚崎古墳群の特別展 肝付町歴史館

2007.07.20 南日本新聞：南風録

2007.08.28 南日本新聞：「肝属の王」にロマン 肝付・歴史館特別展から

2007.08.31 西日本新聞：くりぬき型の石棺出土 大崎町・神領10号墳 県内で2例目愛媛の須恵器も発見

2007.09.01 南日本新聞：舟形石棺の一部出土 大崎神領古墳群 鹿県2例目 岩くりぬき葬る 愛媛や東九州と交流示す遺物も あす現地説明会

2007.09.04 毎日新聞：神領古墳群10号墳：大型舟形石棺が出土 愛媛の須恵器も確認－大崎町 県内2例目 活発な地域間交流裏付け

2007.10.01 西日本新聞：須恵器、土師器が60点 神領10号墳祭祀空間保ち出土 大崎町

2007.10.13 朝日新聞：神領10号墳から大量の祭祀土器

本村浩之 [准教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育への貢献

共通教育科目「博物館へのいざない」担当

2) その他

博物館実習

インターンシップ

(2) 研究活動

1) 研究論文（査読付き）

Motomura, H., P. R. Last and G. K. Yearsley. 2007 (Apr.). *Scopelarchoides kreffti* (Actinopterygii: Aulopiformes: Scopelarchidae) from off Tasmania, Australia: first records from outside the South Atlantic Ocean. *Species Diversity*, 12 (1): 9-15.

Last, P. R., W. T. White, H. Motomura. 2007 (Apr.). Description of *Squalus chloroculus* sp. nov., a new spurdog from southern Australia, and the resurrection of *S. montalbani* Whitley. CSIRO Marine and Atmospheric Research Paper No. 14: 55-69.

Motomura, H., P. R. Last and G. K. Yearsley. 2007 (May). Two new species of the scorpionfish genus *Trachyscorpia* (Sebastidae: Sebastolobinae) from the southern Indo-West Pacific, with comments on the distribution of *T. eschmeyer*. *Zootaxa*, 1466: 19-34.

Motomura, H., M. Ito, M. Takayama, Y. Haraguchi and M. Matsunuma. 2007 (Aug.). Second Japanese record of a threadfin, *Eleutheronema rhadinum* (Perciformes: Polynemidae), with distributional implications. *Biogeography*, 9: 7-11.

Motomura, H. and S. Harazaki. 2007 (Aug.). *In situ* ontogenetic color changes of *Pentapodus aureofasciatus* (Perciformes: Nemipteridae) off Yakushima Island, southern Japan and comments on the biology of the species. *Biogeography*, 9: 23-30.

Motomura, H., M. Ito, H. Ikeda, H. Endo, M. Matsunuma and K. Hatooka. 2007 (Aug.). Review of Japanese records of a grouper, *Epinephelus amblycephalus* (Perciformes: Serranidae), with new specimens from Kagoshima and Wakayama. *Biogeography*, 9: 49-56.

Motomura, H., S. Kimura and Y. Haraguchi. 2007 (Dec.). Two carangid fishes (Actinopterygii:

Perciformes), *Caranx heberi* and *Ulua mentalis*, from Kagoshima: the first records from Japan and northernmost records for the species. Species Diversity, 12 (4) : 223-235.

松沼瑞樹・米沢俊彦・四宮明彦・鈴木廣志・大木公彦・本村浩之. 2007 (Dec.). 絶滅危惧種スナヤツメ南方型の鹿児島県からの70年ぶりの記録. 日本生物地理学会会報, 62:23-28.

2) その他の出版物 (査読なし)

本村浩之. 2007 (Apr.). 総合研究博物館所蔵魚類標本と魚類ボランティアの活動. 鹿児島大学総合研究博物館ニューズレター, (16):1-16.

本村浩之. 2007 (May). 図書紹介 魚類学「Reef and shore fishes of the Hawaiian Islands」. 魚類学雑誌, 54 (1):90.

本村浩之. 2007 (Sept.). 今なお謎に包まれる幻の魚クマソハナダイ. 鹿児島大学総合研究博物館ニューズレター, (17):14.

伊東正英・高山真由美・原口百合子・松沼瑞樹・本村浩之. 2007 (Dec.). 鹿児島県から多獲されたアジ科魚類の稀種マテアジ. 南紀生物, 49(2):117-118.

Motomura, H. 2008(Feb.). Book Review of “Reef and shore fishes of the Hawaiian Islands”. Ichthyological Research (Editorial Notes and Announcements), 55(1):97-98.

本村浩之 (監修). 2008 (Mar.). 財団法人鹿児島市水族館公社 (編著) ～かごしま水族館が確認した～鹿児島県の定置網の魚たち. 財団法人鹿児島市水族館公社, 鹿児島市. 260 pp.

本村浩之 (監修). 2008 (Mar.). 鹿児島市・かごしま市民環境会議 平川動物公園 五位野川の生き物たちマップ. A3, 4 ヶ折.

3) 学会・シンポジウム等発表

本村浩之. 2007 (21 Apr.). 初心者のための魚類分類学基礎講座. かごしま水族館ボランティア「海遊びの会」. 桜島ユースホテル, 鹿児島.

本村浩之. 2007 (21 May). インド・太平洋域におけるスズキ目ツバメコノシロ科魚類の分類学的研究. 第78回多島圏研究センター研究会. 鹿児島大学総合教育研究棟5階ホール, 鹿児島.

Tsukawaki, S., H. Motomura and Team ERDAC. 2007 (5-6 July). Present state of pollution and destruction of natural environment in the Angkor Monument Area – Monitoring, Evaluation and Eradication. the 16th Technical Committee of the International Coordinating Committee for the Safeguarding and Development of the Historic Site of Angkor, Sokha-Angkor Hotel, Siem Reap, Cambodia.

松沼瑞樹・鈴木廣志・高山真由美・原口百合子・本村浩之. 2007 (5-8 Oct.). 鹿児島県指宿市に定着している外来魚カダヤシ科グッピー属の形態学的検討. 第40回日本魚類学会年会. 北海道大学学術交流会館, 札幌市.

目黒昌利・瀬能 宏・鈴木廣志・原崎 森・本村浩之. 2007 (5-8 Oct.). 八丈島から得られたヘビギンポ科ヘビギンポ属の1未記載種. 第40回日本魚類学会年会. 北海道大学学術交流会館, 札幌市.

本村浩之・P. R. Last・J. W. Johnson. 2007 (5-8 Oct.). インド・西太平洋域におけるハオコゼ科*Liocranium*属の分類学的再検討. 第40回日本魚類学会年会. 北海道大学学術交流会館, 札幌市.

Tsukawaki, S., H. Motomura, and Teams EMSB & EMSB-u32. 2007 (7-12 Nov.). Results from research programmes EMSB-u32 (UNESCO MAB-IHP Joint Programme Ecological and Hydrological Research and Training for Young Scientist in Tonle Sap Biosphere Reserve, Cambodia: Research and Training for Young Scientists) and EMSB (Evaluation of Mechanisms Sustaining the Biodiversity in Lake Tonle Sap,

- Cambodia) in Lake Tonle Sap, Cambodia. Joint Regional Seminar Ecotone SeaBRnet 2007 and Annual Conference of CBRN, Sanli Hotel, Libo County, Guiyang, China.
- Motomura, H. 2007 (28 Nov.-4 Dec.). Generic features of the threadfins (family Polynemidae) from morphological and biological perspectives. JSPS-VCC-UPM Training Course and Workshop on Fish Taxonomy and Diversity. Marine Science Research Centre, Fakulti Sains, Universiti Putra Malaysia in Port Dickson, Negeri Sembilan, Malaysia.
- 本村浩之. 2008 (8 Jan.). カンボジアの自然と文化. 鹿児島市火曜会. 鹿児島市生涯学習プラザ・男女共同参画センター, 鹿児島.
- Tsukawaki, S., P. Hang, H. Motomura, and Teams EMSB, EMSB-u32 & ERDAC. 2008 (4-9 Feb.). Three research programmes in Tonle Sap Biosphere Reserve, Cambodia from 1992 to 2008 - the past, the present time and for the future -. UNESCO-MAB the 3rd World Congress of Biosphere Reserves, Palacio Municipal de Congresos Convention Centre, Madrid, Spain.
- Matsunuma, M., H. Suzuki and H. Motomura. 2008 (3-4 Mar.). Freshwater ichthyofauna in Kagoshima Prefecture, southern Japan, with comments on zoogeography. International Symposium on Systematics and Diversity of Fishes. Ueno Campus of the National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- Ogihara, G., A. Shinomiya, Y. Iwatsuki and H. Motomura. 2008 (3-4 Mar.). Review of the genus *Banjos* (Perciformes: Banjosidae). International Symposium on Systematics and Diversity of Fishes. Ueno Campus of the National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- Kuriwa, K., S. Chiba and H. Motomura. 2008 (3-4 Mar.). Genetic population structure of the Blacktip Grouper, *Epinephelus fasciatus*, in Japan. International Symposium on Systematics and Diversity of Fishes. Ueno Campus of the National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- Motomura, H., T. Mukai and S. Tsukawaki. 2008 (3-4 Mar.). Freshwater fish diversity in Cambodia. International Symposium on Systematics and Diversity of Fishes. Ueno Campus of the National Museum of Nature and Science, Tokyo.

(3) 外部資金

競争的外部資金（代表者）

日本学術振興会 科研費若手研究 (B) 「インド・太平洋域に分布するフサカサゴ科魚類の分類・進化・生物地理学的研究」

競争的外部資金（分担者）

日本学術振興会 多国間交流事業経費 「沿岸海洋学 海洋生物多様性プロジェクト」

鹿児島市 市民とつくる協働のまち事業補助金 「平川動物公園五位野川の生き物調査・マップ作製・配布」

日本学術振興会 科研費基盤研究 (A) 一般 「黒潮と日本の魚類相-ベルトコンベヤーか障壁か-」

日本学術振興会 若手研究者国際ナショナル・トレーニング・プログラム 「熱帯域における生物資源の多様性保全のための国際教育プログラム」

(4) 社会貢献・学外活動

日本動物分類学会 編集委員

日本魚類学会 編集委員

国際自然保護連合 種の保存委員（珊瑚礁性魚類分野）

日本学術振興会多国間交流事業魚類多様性チーム

ズーサポーターかごしま市民環境会議自然観察分科会「平川動物公園で川の生き物を調べてみよう！」五位野川. 指導・解説 2007年4月29日

かごしま市民環境会議自然観察分科会「和田川自然観察会&クリーンアップ」和田川. 指導・解説 2007年5月12日

かごしま市民環境会議自然観察分科会「甲突川自然観察会&クリーンアップ」甲突川. 指導・解説 2007年8月26日

ズーサポーターかごしま市民環境会議自然観察分科会「五位野川自然観察会 川のいきものしらべ 夏休みの自由研究」五位野川. 指導・解説 2007年8月26日

鹿児島県自然愛護協会 事務局長

第40回日本魚類学会年会分類セクション座長

Australian Museum Research Associate

(5) 調査研究

日本学術振興会拠点大学事業魚類多様性ワークショップ (マレーシア, ポートディクソン) 2007年11月28日~12月4日

フサカサゴ科魚類のタイプ標本調査 (ワシントンDC, スミソニアン自然史博物館) 2007年12月6日~21日

ニュージーランド産メバル科魚類の分類学的研究 招待 (ウェリントン, ニュージーランド国立博物館) 2008年1月19日~2月1日

アンコール遺跡環濠の魚類生態系プロジェクト (カンボジア, シェムリアップ) 2008年3月18日~24日

(6) 報道関係

生きた化石・ラブカの公開解剖. さくらじまの海, 11(1)10周年記念号: 7. 2007年6月

蘭牟田池 外来魚を釣って「生態系」を学ぶ. NHK鹿児島. 2007年7月29日

「ヤクシマキツネウオ」と命名 01年発見の新種 一湊の湾内で魚群遭遇「ヤクシマ」和名に 原崎さんの観察実る. 南日本新聞 (日刊). 2007年8月4日

外来魚 釣って食べて駆除 薩摩川内・蘭牟田池 鹿大が親子体験ツアー 66人でブルーギル200匹. 南日本新聞 (朝刊). 2007年8月9日

かお ヤクシマキツネウオの生態を解明した 原崎 森さん 全国のダイバーが屋久島に注目するだろう. 南日本新聞 (朝刊). 2007年8月29日

台湾近海魚捕獲相次ぐ 南薩沖 黒潮の流量増が原因か. 南日本新聞 (朝刊). 2007年9月16日
学芸員コーナー 鹿児島湾の魅力に迫る特別展 鹿児島大学総合研究博物館 本村浩之さん. 朝日新聞. 2007年10月6日

鹿児島湾で新属の魚採集 クロユリハゼ科 鹿大が標本展示. 南日本新聞 (日刊). 2007年10月16日

鹿児島湾に新属の魚? 水中写真家, 出羽さん採取. 毎日新聞. 2007年10月19日

鹿大博物館で鹿児島湾の自然史展. NHK鹿児島. 2007年10月22日 (3回放送)

考現鏡 全体像を探るには. 南日本新聞 (朝刊). 2007年10月23日

鹿児島湾の生物一堂 鹿児島大で「自然史」展. 南日本新聞 (朝刊). 2007年10月30日

大学に博物館…… 特別展が好評. かごしまスーパーJチャンネル 鹿児島放送. 2007年11月5日

てくてく荒田~学びと発見! 学生気分でのんびり散歩~ リビングかごしま. 2007年11月10日
うねうね自然浪漫. MBCラジオ. 2007年11月10日

南洋のアジ 北半球初採集 笠沙・片浦沖で伊東さんの定置網「イトウオニヒラアジ」と命名. 南日本新聞（朝刊）. 2007年12月28日
 北半球初採集の魚に自分の名前が付いた 伊東正英さん 鹿児島県の魚種の豊富さを知って. 南日本新聞（朝刊）. 2008年1月12日
 淡水魚スナヤツメ 70年ぶり県内採集 絶滅危惧種、鹿大が鑑定. 南日本新聞（朝刊）. 2008年1月18日
 皇室日記. 日本テレビ. 2008年3月9日
 皇室ダイアリー 天皇陛下 魚類シンポジウムに出席 40平方m研究室で行うハゼ分類. 読売ウィークリー, p. 72. 2008年3月23日
 総合研究博物館特別展「鹿児島湾の自然史」を開催. 鹿大ジャーナルNo. 177 Spring/2008: 23. 2008年3月
 ツラナガハギ鹿児島湾で繁殖 国内初 本村鹿大准教授ら確認. 南日本新聞（朝刊）. 2008年3月24日
 かごしま 知の最前線54. 鹿児島大学総合研究博物館 本村浩之准教授 魚の分類学的調査「日本一の多様性、図鑑に」. 南日本新聞（朝刊）. 2008年3月31日

福元しげ子 [助手]

(1) 教育活動

鹿児島大学法文学部および教育学部にて開講の「博物館実習」の不足分を補う実習の補助、
 鹿児島県公立高等学校生インターンシップ生徒2名の受入れ補助。

(2) 研究活動

標本の修復・保存に関する研究。鹿児島大学の標本・資料に関わる研究者に関する研究。
 鹿児島市の里山における動植物についての研究。
 Nature of Kagoshima 34: 40-41 Mar. 2008

(3) 社会貢献

協力
 「大学博物館事典 市民に開かれた知とアートミュージアム」日外アソシエーツ株式会社 2007. 8

(4) その他

＜行事等の企画・参画＞

- ・第12回研究交流会「戦争遺跡・戦跡考古学を鹿児島で考える－太平洋戦争の考古学－」
- ・第12回市民講座「ブラックバス問題はどこへ向かうのか」
- ・第7回自然体験ツアー「池のさかなウォッチング－鹿児島のさかなと外国のさかな－」
- ・第13回市民講座「鹿児島湾の生きものたち」
- ・第7回特別展「鹿児島湾の自然史」（10月15日～1月15日）
- ・第7回公開講座
- ・第3回学内コンサート「薩摩琵琶の夕べ」島津義秀（精矛神社宮司・加治木島津家第十三代当主）

鹿児島大学総合研究博物館 第7回 特別展

鹿児島湾の自然史

Exploring the Biodiversity of Kagoshima Bay

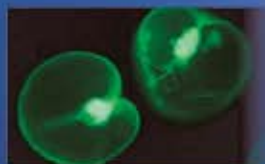
平成19年

10月15日(月)～11月15日(木)

10:00～17:00(期間中全日開催)

鹿児島大学郡元キャンパス

総合教育研究棟2Fプレゼンテーションホール



鹿児島湾に暮らす
水生生物の多様性に焦点をあて、
最新の研究成果を分かりやすく紹介します。
海藻、有孔虫、プランクトンから
エビ、タコ、魚、イルカまでの様々な生物を
生体、標本、映像を用いた多角的な展示をご覧ください

入場
無料

ミニコンサート

「弦楽器とピアノの調べ」

演奏者: Violin 濱田佳寿江 Cello 有村航平 Pf 有村麗子

日時: 平成19年11月10日(土) 13:00～14:00

場所: 鹿児島大学郡元キャンパス 総合教育研究棟1F エントランスホール

入場無料

第13回市民講座

「鹿児島湾の生き物たち」

講師: 四宮明彦・大富 潤・寺田竜太(鹿児島大学水産学部)

日時: 平成19年11月10日(土) 14:00～16:00

場所: 鹿児島大学郡元キャンパス 総合教育研究棟2F 203教室

入場無料



鹿児島大学総合研究博物館

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 TEL(099)285-8141 FAX(099)285-7267

<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

●協力/ 鹿児島大学水産学部・理学部 いおワールド かごしま水族館 鹿児島純心女子短期大学 ダイビングサービス海案内 折田水産 海洋研究開発機構

鹿児島大学総合研究博物館 第12回 研究交流会

戦争遺跡・戦跡考古学を鹿児島で考える —太平洋戦争の考古学—

2007年 6月 30日 (土)

13:30-15:30

講師 十菱 駿武 (じゅびし しゅんぶ)

山梨学院大学 教授
文化財保存全国協議会 代表委員
戦争遺跡保存全国ネットワーク 代表

橋本 達也
鹿児島大学総合研究博物館 准教授

鹿児島大学郡元キャンパス
総合教育研究棟2F

入場無料

鹿児島大学総合研究博物館

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30

099-285-8141

<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>



鹿児島大学総合研究博物館 第7回自然体験ツアー

池のさかなウォッチング

—鹿児島県のさかなと外国のさかな—



日時: 2007年 7月 29日 (日) 10:00 ~ 14:00

場所: 薩摩川内市祁答院町間年田池 (晴地集合)

対象: 小・中学生とその保護者

定員: 30名 (希望者が定員を超えた場合抽選となります)

参加費: 無料

講師: 瀬能 宏 神奈川県立生命の星・地球博物館

協力: 米沢俊彦 (財) 鹿児島県環境技術協会



申込方法: ハガキに次のことがらを明記して、

下記にお送り下さい

①参加者全員分の氏名と年齢

②住所

③電話番号

締め切り: 6月22日 (金) (消印有効)

参加決定者には7月上旬に詳しいプログラムをお送りします。

抽選にもれた方にもハガキをお送りします。



鹿児島大学総合研究博物館

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30

Tel: 099-285-8141 Fax: 099-285-7267

自然体験ツアー係 本村

鹿児島大学総合研究博物館 第12回市民講座

ブラックバス問題はどこへ向かうのか

講師 瀬能 宏

神奈川県立生命の星・地球博物館主任研究員
日本魚類学会外来魚問題検討部会委員

2007年 7月 28日 (土) 14:30 - 16:00

鹿児島大学郡元キャンパス 総合教育研究棟2F

入場無料

ブラックバスとはどんな生物が?
日本への導入経緯と現状の現状
特定指定を受けらるまでの経緯
生物多様性条約6に外来生物法まで
特定指定前後の取組の対照的の対比
特定指定後のとり組み (防除の実態)
国・自治体・環境NPO
今後の展望・環境復元と問題点

鹿児島大学総合研究博物館

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30

099-285-8141 (担当 本村)

<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

鹿児島大学総合研究博物館第13回市民講座

鹿児島湾の生き物たち

3名の専門家が鹿児島湾に生息する生物を紹介します

深海底の生き物たち

大富 司

水産学部・准教授

イルカや魚たち

四宮 明彦

水産学部・教授

海の森

寺田 電太

水産学部・准教授

日時
11月10日 (土)
14:00 ~ 16:00

会場
鹿児島大学郡元キャンパス
総合教育研究棟203教室

入場無料

鹿児島大学総合研究博物館

Tel: 099-285-8141 Fax: 099-285-7267

肝付町立歴史民俗資料館 特別展

古墳に眠る肝属の王 —塚崎古墳群の時代—

2007
7月12日(木)～9月10日(月)
9:00～16:30
(全日開催)

共催
肝付町教育委員会
鹿児島大学総合研究博物館

ところ
肝付町立歴史民俗資料館
一般・高円 学生・五十円

今、明らかに
肝属の古代
古墳出土品の数々
ここに集う

肝付町立歴史民俗資料館 0994(65)0170
鹿児島県肝属郡肝付町野崎 1936 番地

開館30周年記念 企画展

植物のビーズ

つくって、つないで
Creating and Communicating
with Seed Beads

2007
10/4(木)～12/18(火)

会場：国立民族学博物館 常設展示室 企画展示室
開館時間：10:00～17:00(入館は16:30まで)
休 館 日：水曜日

共 催：国立民族学博物館
鹿児島大学総合研究博物館

大分県民利活用推進法人 人間文化研究機構
国立民族学博物館

30th
開館30周年

鹿児島大学総合研究博物館 ■ 第7回公開講座

生物多様性と小さな進化 —イネを通してみた世界—

■ 講師 森島 啓子

元国立遺伝学研究所教授、元東京農業大学教授。
約40年間にわたり、東南アジア、アフリカ、南アメリカでフィールドワーク
を行い、イネ属の種分化や栽培稲の起源に関する研究をリードしてきた。
編著書に『日本文化の起源』(講談社1993)、『野生イネへの旅』(装華
房2001)、『野生イネの自然史』(北大図書刊行会2003)などがある。

野生イネの研究者とともに
生物の世界と人間の世界を
旅してみよう

入場
無 料

どなたでもご参加ください

■ とき 2007年12月8日(土)13:30～15:30
■ ところ 鹿児島大学 都元キャンパス
総合教育研究棟203室

鹿児島大学総合研究博物館
〒890-0065 鹿児島市都元1-21-30 Tel.099-285-8141/Fax099-285-7267
イベント情報やアクセスについてはウェブサイトをご覧ください www.kagoshima-u.ac.jp

曾於郡大崎町
神領10号墳発掘調査出土遺物

はにわ現る

特別陳列
総合研究博物館 常設展示室
2007.11.09-11.11

初公開 須恵器

鹿児島大学総合研究博物館

鹿児島大学総合研究博物館年報
Annual Report of The Kagoshima University Museum
No.7
2007

2008.03.31

鹿児島大学総合研究博物館 The Kagoshima University Museum
890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 1-21-30, Kohrimoto, Kagoshima 890-0065, Japan
Printed in Japan

